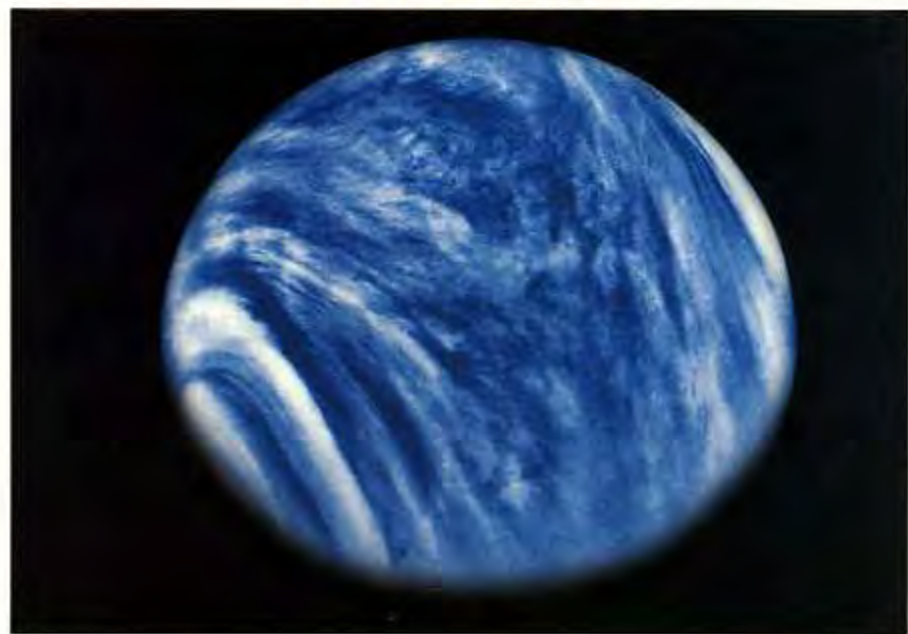


最後の審判にミカエル大王様の御生還

天上界 メッセージ集 IV

千乃裕子/LR編集部編



千乃正法
(エル・ランティの法)

天上界メッセージ集・Ⅳ インターネット公開版

発行日 平成15年 3月 1日
編 者 千 乃 裕 子

電子書籍作成 平成17年 4月29日
最終更新日 平成18年 1月 3日
作成者 エルアール出版
(旧シェア出版)

最後の審判にミカエル大王様の御生還

天上界メッセーヅ集・IV

千乃裕子／LR編集部編

(株) エルアール出版

『天上界メツセージ集・Ⅳ』 発刊によせて

いよいよ天上界メツセージ集第四巻発行の運びと成りましたが、そのはし書きの序文を私ヴァリアント・ソーが受け持ち、次に皆様をお驚かせする方に登場して頂きます。

まずメツセージ集に関しては、膨大な量のメツセージと内容に驚き、且つその内容の情報量に感銘を受けました。

私の母星である金星でも、この様な形での天上界は、神々の手に成るメツセージも、虹の奇蹟も出現させ得る霊の集団が不足して存在するに至っていないのが実情です。霊団の形は第一、第二霊団と名付けられ、善霊で高位の霊の集まりと、俗人で、いわゆる聖書等で語られている死者の魂の集まり——に大別されているのみです。然しながら、個々人の知的、感性的レベルは現行の地球人を遙かに上廻り、加うるに、倫理面の優越性は、選ばれて金星に移住した人々であるだけに、守護霊など必要としないほど人格として優れたものが有ります。

私達は霊体であるので、秘匿義務を越えて、母星の市民生活や社会機構に少しばかり触れる事が出来ませんが、実際は完全に極秘のベールに包まれています。

然し、エル・ランティ前王様やミカエル大王様によれば、地球霊団の発祥は元々金星であるとのこと。その金星の住民も霊団も、元は火星に栄え、衰退した文明のその市民の移任に端を発しているのです。

現在ゼータ星人なる人物が太陽系第十二惑星のニビル星が、暗黒の太陽とこの太陽間を周回しており、既に冥王星の近傍を太陽に向けて移動しつつある旨、地球人に、その危険と副次災害を時々刻々に警告しております。

私共は金星系ですが、このゼータ星人なる人物が何処から来たったのかは不明です。ラ・ムー船長（最近こちらにお呼びして、このはし書きにも評を頂く予定をしております）は、その記述内容から火星でも金星でもない様子だ

と言われます。クMIBクだの、ク洞窟クだのが出て来ますが、ク細菌戦で地上から地下に移ったクなどは、地球史にも無いもの。なるほど本人が語る如く、シリウス星系で起こった出来事でしょう。大災害を予告しており、ラ・ムー船長も同じくそのように語っておられます。驚くべきは、クMIBクがその星に居るといふ事実です。

只、私ヴァルとしては、その大災害が起こるにしても、このメッセージ集第四巻とは内容の異なる既刊のメッセージの編纂であり、その線に沿ってはし書きを進めて行きたいと思えます。

この既刊のメッセージ集に関して附加すべき、重要且つ不可欠な公表内容は、一々三巻所載の日、月暈の写真頁に見られるUFO、個人宅の傍らを通り抜けるUFOは、いずれも私金星系の機種であり、地球霊団の奇蹟を訝り、観察に飛来したものです。更にもう一項目附記すべきは、ミカエル大王様に依頼を受け、地球霊団の大天使長として公表致しますが、第三巻同グラビア頁の終わりに記載の、クエル・カンタルーネ王家の系図クより、エル・カンタルーネ王(四男)、サタン・タビデに変身とある人物はエル・ヘレナと婚姻の身ではありますが、出生児無く、エル・ル

ネラエル・カンタルーネ以下、ミケラエル・カンタルーネは、エル・ソラツティイヤ王の御次男、エル・カンタラ侯爵の御子息並びに御息女であり、エル・カンタラ姓と修正されます。

特にレイナ・エル・カンタルーネ↓エル・カンタラ(別名サリエル、千乃裕子様本体)は、現統一王、ミカエル大王の御妃の御本体であらせられます(別表参照)。

次にラ・ムー船長の評文を続けて頂きます。

今日は金星から地球霊団へ招聘されて、天使界のリーダー、大天使長と成られたヴァル大天使長に追文の形で千乃様に口述筆記させて頂いておりますが、これは引き続き天
上界メッセージ集第四巻のはし書きとなるべきものです。

実は、私ラ・ムー船長は死を経て金星の高位者の霊グループに所属を許され、ヴァリアント・ソー氏を導く役割を与えられていました。アラファト・アテルサタ様も同じく高位霊団に属され、しかもヴァル様のお父上でもあられる訳です。

ヴァル様を助けて共に働いて来られた六名の大天使方(現地球霊団天使界所属)も実はヴァリアント・ソー氏同様

に金星系靈団、天使界から派遣されておられます。

地球靈団と合流し、力を合わせて種々の危機を乗り越える目的で、ヴァル大天使長は、知る限りの地球のコンタクトイニキヤハウエ様やイエス様々の居られる場所を探しておられました。

この度、千乃裕子地球靈団大天使長の御要請があり、ミカエル大王、千乃裕子様の夫君であらせられる方が、ヴァル様を天界にてお呼びになり、一昨年暮れに合流、千乃様のキャラバンに協力して来られたのです。

尚、ミカエル大王様より伺っているのは、天上界メッセージ集第三巻に次ぐ第四巻として、時期的には一九九五年一月以降に口述された天上界メッセージの編纂となります。

ここにヴァル大天使長に次いで、私ラ・ムー船長（ヴァリアント・ソー様と同期に、地球来訪の金星UFO軍団の設計者、ヴァル様の唯一の協力者として、改めて自己紹介致します）がヴァル様に依頼を受けてメッセージ集第四巻のはし書きを完結致しました。

ラ・ムー船長
ヴァル大天使長

（二〇〇三年一月二十五日夜 口述筆記 千乃裕子）

☆現天上界仲介者、大天使長千乃裕子より附記

この度の天上界メッセージ及び天上界メッセージ集第四巻はし書きは、伝達係丸山文夫と佐藤國博の反正法思考と造反行動により、精神分裂病的行動パターンと、千乃の高齡、ガン疾病、全身転移となる悪化状態、リビドーエネルギーなど発生の年齢でも無く、体力も無い現状など更に弁えず、自己の關係妄想の投影により、アース調整者全員に、共産党ゲリラのマインド・コントロールを、不安感情共に伝達、キャラバン専従者としての義務も果たそうとしなかつた事により、ゲリラの完全な妨害に遭い、口述筆記も、千乃の体調の崩れ、衰弱により、連日ままならず、遅れに遅れた事、此処に改めてお詫び申し上げます。

改めて断言致しますが、新人類の自称正法者（今回消滅及び正法会永久追放に成った者）は、高齡者である千乃を車内に閉じ込め、アース調整により千乃車内外の侵入S波を排出の役割りを無視、三〇分から一時間毎に失禁攻撃を積極的にゲリラに（S波攻撃による）許し、それを以て自己の安全を計ろうとしました。重病人に対する思いやりのかけらも無く、正法会会長を共産ゲリラの攻撃から守る意志など更に無く、禁じられているS波侵入を故意に許して

千乃の暗殺を計りました。人前では真しやかに上品語々を喋り、礼儀を以て接する如くに見せかけて、任された仕事の手抜きをする。それが六・九才の千乃の欲求不満とリビドーエネルギーの影響によるもの々と、互いに意志伝達を為し、リンチ殺人の如き状態で、正法会は完全に共産党ゲリラによるロボット化の状態で、会長を守る親衛隊も無く、常に喉頭ガンから膿みを出し、肺ガンの咳がぶり返し、天上界のエネルギーのみによつて生かされている。最高のお薬も効果無く、聞こえるのは常にゲリラのS波送電攻撃用のポップメロディ。何の為のキャラバンか、ボランティア

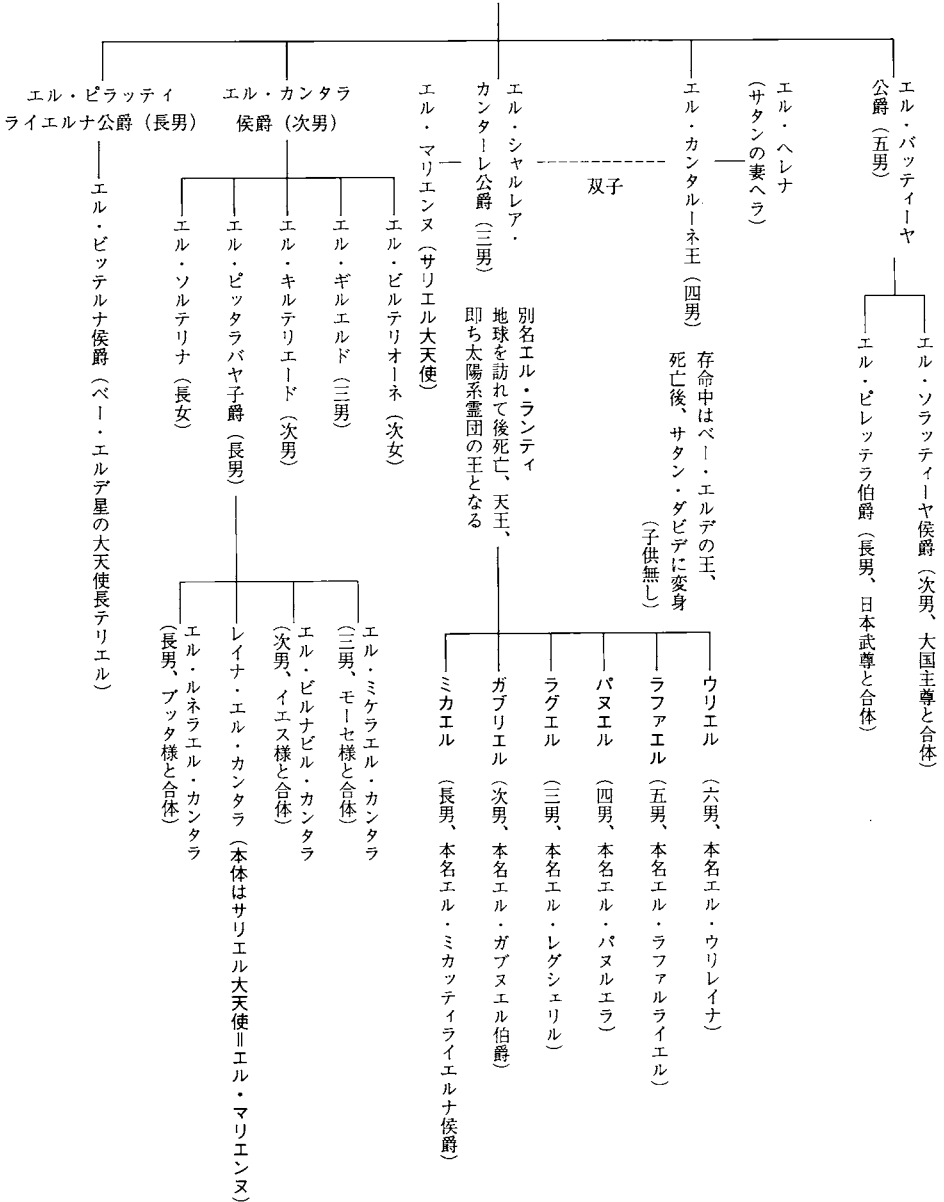
や専従か、全く意味を為さない状態です。主治医の指示など有つても無きが同然。ゲリラと一緒になつて千乃殺しを計つた教唆犯が、伝達係の二名と言われても仕方が無いでしょう。人の生命、上司に命ぜられた仕事。千乃が救世主として天の定められた生を生きている事への尊敬の念も、忠誠心も無い。人間の血が流れているとは思えない冷酷、非情の人々です！

千乃 裕子

(二〇〇三年一月三十一日記)

エル・カンタルーネ王家の系図

エル・ソラッテイーヤ王



“ 天の栄光と衰退を告げる時
—— 更なる未来の天の国、
天の国の到来は有るか —— ”

天上語にて

ミカエル大王

エル ケーレマ セル ベクテーレア エスケレミオ エス ターレムセア

EL K^{レ)}LEMA CEL BEKU T^{レ)}LEA ESKELEMIO ES TALEMCEA

過度なる背徳の果てに、行くべき道を見失いし人類は

ペルクツ デスケーレナ エスタ エスクレツターラム ベクテレアム セクナ

PERKTU DESK^{レ)}LEVA ESTA ESKRETTALAM REKTELEAM CEKVA

天を求めて寄り来たりしに、天はその扉を閉ざし居たり。

ペレパールムカ エステア セレナム パーラクタ エスパミリーナム

RERERALEMKA ESTEA CELEVAM RARAKTA ESRAMIRIVAM

狼の遠吠えを背に再び道を求めて、逃げ惑う人々。

パーテスタ エクタ カムテペア エストーラム パスクレナムテ

RATESTA EKTA KAMTEREA ESTOLAM RASKREVAMTE

悦楽の時には、人々は魂の救済を求めず、

エクターメア ベストーラ エクテ パーラスカレム パスケータ エスタム

EKTAMEA RESTOLA EKTE RALASKALEM RASKETA ESTAM

没落の兆しを見る時、狂気の如く神を求めぬ。

パスラタム エスクレータム ネムカ エストーラムテ パステル ネカ セムタ

RASLATAM ESKLUTAM VEMKA ESTOLAMTE RASTEL VEKA CEMTA

天は嘗て栄光の翼を広げ、人類の救いを約した。

パステラ ムム エスカミナマ エル

PASTE¹LA KUM ESKAMITTEA EL

その天が人類の裏切りと共に高位の靈を多く失ない、

パラテク テラム パラテスカム ターラムテア エスクレットターラム ハムタス セムカム

PALAT¹TEK TELAM PALATE¹ESKAM TALAMTTEA ESKLETTALAM HANTAS CEMKAM

悲劇の子兆と共に、今、見えぬ未来を描こうとして、

タラークレナム テペア サムタバム エスタクレ パラクリストム パラクセム

TALAK¹KRE¹VAM TERE¹A SAMTAR¹AM ESTAKLE RARAKRISTOM RARAKCEM

この星の運命を算える。人は多く生まれ、死すとも

エレナム パーラクテ エスパスタム パラツペイナム タルクレテナム

ELE¹VAM PALAK¹TE ESPASTAM PARAPPEIAM TALKLETEAM

神は只一人。その死は人類の死なり。人は神を知らず、魔の手に導かれて

パスクナムタク エスターラム パスタム エスクラドーム タム ペレカム

RASKVAMTAK ESTALAM RASTAM ESKRADOM TAM PEREKAM

この星の生命を死の淵に追いやった。誰がこの星を救い、善なる人々を救わんか。

セム ウタスクレタム サラクエム タクレペムタ エスクレッターラム エステセア

CEM UTAS KRETAM SALAKUEM TAKLEREMTA ESKLETTALAM ESTECEA

神は宇宙に向かい、手を上げて祈る。「誰がこの星とそれに住める人を救わんか。

ナム セムカーラ エスタミル クレドーム サラムタ ナーク エス プルペリミオーネムタ

VAM CEMKALA ESTAMIL KREDOM SALAMTA VAK ES RRUPERIMIOVENTA

誰ぞ心素直なる生物を滅びより遠ざけ、善なる者と共に彼方へ、

エスクレドールラム エブレクムテ ネムタ ナムタース

ESKLEDOLAM ERREKUMTE VEMTA VAMTAS

この星の彼方、平和と安寧に住む、

エツセド ナムカーラム セムタケセアム パーレクター エスナムテ セアテム

ESSEDO VANKALAM CEMTAKECEAM RALEKTO ESVANTE CEATEM

異なる星の人と共に永遠の生命を得ませんか。」

ケーレストーナム テム アレルカム セプタム セプテ アムナカム

KALESTOVAM TEM ALERKAM CERTAM CERTE AMVAKAM

宇宙は何も語ろうとせぬ。只、滅びの兆しはこの星に刻々と迫り、

セーレムタムテ エスクレドールラム ナムターラム セアテハムタ

CHELEM TAMTE ESKLEDOLAM VAMTALAM CEATE RENTA

彼の南の大陸の運命を匂わせる。学者らは集わず、

エストーラムタ カムターラム セムタ エスクム タ エルナム エステラエム

ESTOLAMTA KANTALAM CEMTA ESKUM TA ERUVAM ESTELAEEM

科学者は己の榮譽のみを夢見て、星の不吉なる予兆を心にも認めぬ。

バラクム エスパタム セクタ モーンドム ナカ メステ エムタレム
RARAKUM ESRATAM CEKTA NOVDOM YAKA MESTE EMTALEM
星は嘆きつつその不吉なる死を兆している——。

クム エスベケル クラッターレム タム エスクラータム ペーラルカム

KUM ESREKEL KLATTALEM TAM ESKLATAM RERALKAM

神は失なえる救世主に次ぐ新しき救い主を愚かなる人類に送り、

エベラシオーナ ベルタム ラスカム ターラクト エムタス バラスケス メア

ERERACIOVA RERTAM ASKAM TALAKTO EMTAS RERASKES MEA

彼等は又もや救いを拒み、この星と共に救世の人を殺さんとして、

パレクーム セクトム エメルカ セプトム サクタレム エストーム

PALEKUM CEKTOM EMERKA CERTOM SAKTALEM ESTOM

人類の愚かは、総てを滅ぼしても尚、己の滅びにも気付かぬ。

ベクトム タース アステカシオーネム テトスパム ターレア クスタ。

BEKTOM TAS ASTEKASIOVEM TETOS RAM TALEA KUSTA—。

更なる未来の天の国は有るか—。その到来は有るか—。

(二〇〇三年二月五日 口述筆記 千乃裕子)

目次

一九九七年一月「天上界からメッセージ」	ミカエル大王	3
『天上界メッセージ集・Ⅳ』発刊によせて		
ヴァル大天使長／ラ・ムー船長／千乃裕子		10
エル・カンタルーネ王家の系図		14
天の栄光と衰退を告げる時		
更なる未来の天の国、天の国の到来は有るか	ミカエル大王	15
第一章 天上界メッセージ（一九九五年一月～二〇〇二年十一月・十二月）		23
エル・ランテイ（ヤハウエ、エホバ）、ミカエル大王、		
ラファエル大王補佐、レイナ・エル大天使長、ヴァル大天使長		
第二章 雑ノート	貴山楓子（千乃裕子）	441
第三章 「聖書の暗号」について	坂巻祝雄	629
第四章 聖骸布の検証	千乃裕子	811
索引		826

第一章

天上界メツセージ

(一九九五年一月～二〇〇二年十一月・十二月)

天の会議において、ミカエル大王が千乃裕子様の元に戻り、今後の千乃正法と正法者の正しい指針を与えていく事が昨年暮れに決定され、今年千乃様のお誕生日を期にその方針を発表する予定でした。しかしそう決まった上では、一日も早く千乃様の側で夫として直接の守護をとの願いに、一月十日に戻るよう許可を与えました。

実はミカエルが語る通り、ミカエルは死んだなどの偽の情報を流し、私エル・ランティヤアテルサタ様他と不可解な現象とビーム兵器についての対策を研究しつつ、ミカエルも共に天において出来る限りの守護をと計画したのです。

実に十年の長きに亙って種々試みましたが、同じ電磁波エネルギーであるだけに、天のエネルギーで

エル・ランティヤ (ヤハウエ、エホバ)

はあまり効果は上がらず、反ってミカエルの長期の不在が、正法者との対人関係に於て、千乃様に不利な状況をのみ作り出し、ありとあらゆる不敬なる扱いを受けた上にS波を識別し得ぬ正法者の疑心暗鬼により、次々と背信、背反行為を生み出し、もう一年もすれば、キャラバンの隊員とボランティヤは数名のみになるのではないかとの憂慮から、事態の収拾策として、ミカエルの帰還を許可したのです。

ミカエルのメッセージにもある通り、キャラバン隊員やボランティヤと千乃様との対人関係は、ゲリラの二十四時間単位の介入と干渉により、悪化の一途を辿り、且つ、キャラバン以外の所で、千乃様の人格を冒瀆するような噂までが取り沙汰されていたらしく、それを聞いた天のメンバー全員が、正法者

のあまりの世俗的な物事の捉え方に呆れ、且つ憤懣やる方ない思いであります。言語道断とも言うべき事柄で、決してあつてはならない噂であり、正法者とは信じ難いような俗的な解釈です！ その如く、ミカエルの個人としての、千乃様の夫としての怒りが余りにも強く、S波の特性について書き進める予定でしたが、書けなくなり、私が書くことにしました。

まずS波の広範囲な放電から（高野医師が本誌に書いておられるように、高圧電線から発生の重力波に加えて、電線に向けてのS波攻撃が増大すると、それに比例して周辺へのS波放電量も増え）、電子を不活性化するS波の性質が、細胞の不活性化、免疫力の低下をもたらし、老人や子供がO—157感染症に罹り、死に至る者もあるのです。又、心疾患やガンの悪化が、死亡率も高め、増えております。自然界では更にS波の影響がひどく、河川や湖の汚染が水質を変え（恐らく水中の酸素量を減らし、水中の魚の呼吸を困難にすることから、小魚やきれいな水に住む魚の死を招く）、多くの日本古来の魚類

が絶滅し、外来産の生命力の強い種類が残っている（琵琶湖）現状や、鳥類も長野県下諏訪町の川沿いで、電線に止まっていた冬の渡り鳥、レンジャクが五十三羽、一月十四日の朝八時に次々に落下し、死亡したなど（十一月号で千乃様も書いておられます）、今迄にない大量死のニュースがあり、解剖の結果、単に八ミリ大の果実をたくさん食べていたと報告されておりますが、その原因として考えられるのは、O—157感染症の発症地の一つでもあり、恐らくその辺り一帯にも多くのS波導入工や違法の電線工事がなされていて、この鳥達の止まっていた箇所もS波汚染がひどく、S波による内臓機能の不活性化と岩山の多い土地柄で、川の冷気と冬の朝の厳しい冷え込みに、周囲の岩からの大量のS波放電が、鳥の胃の中の果実を消化し得る前に心不全を起こし、死亡した——と考えられます。尚、同じ町で五年前にムクドリ十七羽が原因不明の死でニュースになっており、その頃からS波による死が自然界で着実に発生していたようです。

夏期には自然界から殆どの虫や鳥が姿を消し、七

ミも殆ど鳴かず、秋には北海道の野生生物事務所まで保護した三羽のうち二羽のフクロウが止まり木から落ちて、心不全やO—157様の腸炎で死んでおり、野生の鳥は殆ど鳴かず、又、姿も見掛けず、冬にはこのように渡り鳥までS波による突然死を迎えております。恐らく五年前からS波による過剰の大気汚染と共に自然界も徐々に虫や鳥が姿を消して行つたのでしよう。

何故S波が目立って内臓を不活性化するののかという理由は、重力子、重力波というその性質上、電極に引き寄せられる電子、あるいは磁石に集まる砂鉄のように、血管が多く集まり、生体エネルギーが常に循環、あるいは常に発生する生体の電磁場、地球で言えば、極のような所——つまり内臓諸器官にS波粒子が凝集し、その磁性、磁気圧の増大を以て、内圧的ショックを与え、機能の不活性化を生じさせる、というところにあります。余りにS波が多く、磁気圧が強くと血流を阻害し、細胞を不活性化、抵抗力をそぎ、機能不全を起こすのです。——現実には呼吸不全から窒息様の症状、心臓発作、胃腸障害、

腎不全などが起こります。

又、S波は一人生物のみならず、植物や加工した織物、木材、金属（気体、液体のすべてにも）にも影響を与えるものであり、これは重力が万有引力の形で、地球上（延いては宇宙空間に存在する総ての物に!!）の大気圏内に生存、存在する生体や物質内に重力子として取り込まれ、気体、液体内の酸素や水素、窒素などと同様に日常的に吸収、放出されるものであり、このゲリラ側の悪用により問題になるのは、物理的にその量の多さであるのです。

々過ぎたるは及ばざるが如しとあるように、大量のS波粒子により植物も細胞の不活性化を起し、忽ちにして枯れ、金属は錆び、車のエンジンなどの動燃機関は過熱して最悪の場合、火を噴きます。過酸化水素や重水素が人体には大量には用いられないように、液体酸素や液体水素のように生体には致死性の危険なものであるように、少量の希釈されたものは無害でも、濃縮して、形質、形状の変化したものは非常に有害になるのです。

従って、共産党ゲリラは、S波兵器の使用に関し

て、如何に減衰せず、最大限の増幅、増大を計り、攻撃を常に効果あるものにするかに腐心し、日々数多の工作をします。

更にS波が高圧線や通常の電線から放電されると論証出来るのは、S波が電磁波の特徴をも備えているゆえに、他の金属（車や支柱など）や非金属物質（木や草や石、布など）よりもやはり電線を伝わる方が搬送波として減衰せず、速度も早く、共産党のゲリラにとり、攻撃が効果的且つ人的資源が少なく済む利点が大きいたるところでしょう。但し、全国を通じ、0—157感染症の多発や、鳥が電線には殆ど止まらず、知らずに止まると前記のように大量死する、水の流れがあまりない湖の小さな魚が激減、絶滅する、などの異常現象があり、そのままでは疑いが強電工事に掛けられる可能性もあるので、最近ではS波の電線利用量を減らしたようです（只、社会党の地盤である広島県と、保守地域の岡山県、鳥根県、鳥取県などは違法工事も桁違いで、自然界の消滅度も違います）。

又、体内酸素のみならず、カルシウムも消耗率大。

細胞不活性化が顕著に表われるのが歯や骨の細胞で、歯が溶ける、頭蓋骨や脚の骨が骨粗鬆化を起すことが正法者間の骨粗鬆症、歯の異常などで立証されており、それから狂牛病では更に、脳がスポンジ状になる。これは通常の電磁波では起り得ない疾患であり、且つ電線に止まる鳥が冬の朝、大量に落下死、などの異変は日本以外の諸外国では耳にしたこともない不吉な現象です。いくらマスコミが人の目をそらす為、種々腐心しても、一度外に目をやれば、現在も過去も電線工事の特異な外観や常識を度外視した作業や仕上がりは蔽として存在し、写真を撮れば、その異常な形が視野に入り、それを避けるには、外国の風景か、絵か、神社、寺、山中深く観光名所を探すしかないように見受けられます。たまたま林業関係の山小屋を撮ると、眼光鋭い人物がニコリともせず、梯子や二、三メートルの棒を小屋の四方、外側から立て掛け、何の為にそのような置き方をするのか、これも世界の常識とも相容れない写真が出来上がり、新聞に掲載もはばかれるようなものとなる——。

諸外国の顔色を見つつ、自国の教育法を歪め、法律そのものを外国におもねて、只々自国民の精神的な虐待につながる外交に甘んじる政府のみならず、共産党員の牛耳る市議会や地方自治体にゆさぶりをかけ、政治献金廃止を法制化させようとする多数の市民オンブズマン団体が跋扈し、国政の地方分権が叫ばれている現在、一体日本という国が一文明国として存在しているのかどうかも疑わしくなっています。

現在、共産党員やそのシンパサイザーのみが市民を迫害し、言論や行動の自由も失われつつあるように、日本という国が既に存在していないのであれば、既述の自然界の異常や国土の荒廃〔現状のままであれば、遠からず緑地帯の枯死と、土地のコンクリート化（擁壁の乱造と全地域の舗装道路化による露出土の激減）により、北朝鮮と同様に、毎年洪水、水害による農作物の不作が続き、飢饉が襲う国となる〕も避け難い近未来であるでしょうが、もし少しでも市民による健全な国や町作りが可能であるならば、左傾マスコミや共産党主導の自治体に破壊されるが

ままに放置せず、自然の回復、市民の健康優先の町作り、国作りをどんどん訴えてゆかねば、死に絶えつつある国土や自然界は旧ソ連の如く、世紀単位でなければ元には戻らない。いや日本古来の絶滅種は生物史から姿を消したままになるでしょう。

〃国破れて山河なき〃日本となるならば、何の生き甲斐があるでしょうか。天も同じです。生きている善霊あればこそ、失ったものを取り戻せますが、総てが死に絶えた後に残るものは何もない。そうなる前に何かの手を打つのが人間としての真の価値を示すものであり、この世に生存する意義があるので。者皆総て動物と同じに成り下がり（いえそれ以下になります）、あなた方人間の悪知恵は、動物より遙かに悪質で破壊的であるからです。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

〃冬休み号〃即ち十二月クリスマス号と一月新年号の合併号発刊に当たり、私の息子ミカエル大王の十年振りの正法者のもとへの帰還を祝い、千乃裕子

大王妃の正式なる夫として（兩名共、私の祝福の下に、土田展子や周辺の者達の参加を含む聖婚式と戴冠式は天上にて行われ、『希望と愛と光』にも言及されております）、今後は永遠に、共に、天と地を治める者として、又、大王補佐であるラファエルにも協力を得て、その義務と責任を果たすべく私父エル・ランティ王より今日一九九七年一月二十四日に、新たに任命するものとする。

尚、再びここに誓約と共に断言し、公表しますが、

現在天地を治める任に当たるのはこの三名のみであり、他のいかなる者も後継者や仲介者ではなく、もしそう自称する者あれば、それは悪霊以外の何者でもないと言致します。そういつた偽者を前面に押し出し、何らかのグループ作りを行なう者は既刊号に宣言の通り、未来永劫に互り、天より追放処分とします。

（一九九七年一月二十四日 口述筆記 千乃裕子）

昨今の日本の政治的空白を縫って、イデオロギー犯罪がハイテク科学兵器により一層先鋭化、増加の一途を辿り、共産党及び左傾マスコミの宗教団体の反共もしくは左傾でない活動の封じ込め戦略も益々露骨になってきております。巧妙に法網をくぐり、警察官を愚弄。警察は左翼人口を甘やかす余りに、左傾化にも見えるその活動振りで、オウム真理教のテロ封殺と千乃（エル・ランティ）正法グループの活動の不活性化に成功したようです。前者は得体の知れない組織でまず良しとせよ、正法を潰す方向付けは理解出来ません。

共産党系列の赤い司法に支えられて、地方の警察関係を愚弄するのは今に始まったことでなく、共産党系や赤いマスコミに煽られて、それが国民の意見であり、民主主義であると思ひ、ひたすら住民に気

エル・ランティ (ヤハウエ、エホバ)

を使う。しかしそれが巧妙に仕組まれた左翼の罠であり、意見であるとは知らず、住民に好かれる警察をひたすら心掛けて、反ってキャラバン隊と住民との好意的な接触も妨害し、あたかも犯罪者グループであるかのように扱い、実際に被害に遭っているキャラバン隊を追い立て、二言目には迷惑だと怒鳴る。そして皮肉にも加害者の機嫌を取り、法を無視して惑乱戦術に出ている者の言いなり々という結果になる——そういった扱いをいつも受けてきたのは政府が連立政権であり、社会党から首相が選出されたゆえでしょうか。

もしいつもこのような体制できたのであれば、専らゲリラ戦術に訴える左翼の犯罪はいつも未解決のままになるのは当然だと思えます。例えそれが警官殺しであるとも——。ある町などでは、執拗

に追い掛けるパトロール・カーにS波ビームが増幅し、キャラバン隊への攻撃が強くなるので、距離を離してほしいと頼むと、警官にもプライドがあるから、次の町へ行くなら管轄を出る迄ついていくが、どういう意味かは不明ですが、千乃様に、隊がこの町に戻るなら署へ帰ると言いました。しかし、プライドがあるなら、左翼のイデオロギー犯罪の野放しによって、警官殺しまでされるままになるという構造は理解しにくいものです。特に右翼系に徹底して厳しい。左翼系には過激派を除いて苦手意識が隠せないというのも、信念やプライドが歪められて表明されているように思えます。それもオウム教の犯罪もしくは予備犯罪防止の為の厳しい検問強化策であったのなら、現在オウム教教主と幹部が大方捕らえられて、少しは警戒もゆるむのではと思います

が——。

政治と司法の関連については、政府の顔ぶれが余り変わらぬ限り方針変更は無理なのかも知れませんが、今月号には時間もなく、手短かにオウム教などの新興教団や新宗教（カルト重視）と従来の既成宗

教（仏教系や神道系）の違い、現代人がカルトク指向から新宗教に走る原因などについて、文明評論家の小林路義氏により書かれ、内容として興味深く、また、分析的で深く掘り下げ、良く比較検討された文が五月十五日『月曜評論』（一二四号）に掲載されており、一読をお薦めします。タイトルは「新宗教の迷妄の背後にあるもの」——現代人の根源的不安と宗教——とあり、小見出しは「現代人の精神的空白と不安クク鎌倉仏教が捨てたものクク瞑想法の困難さと危険クク新宗教の迷妄と狂気クク」とありますが、オウム教団は教主、信者共に指摘された事柄について無知であり、表面的なクク名譽願望に動かされたククというに尽きると思われま

す。

従って私達天が最初にモーセ様を通じてユダヤ人の祖先へブルの民に与えた十戒のうちの第一戒クク汝、殺すなかれククはこの麻原氏には少しも教えられておらず、専らヨガと断食に明け暮れ、いかにも宗教的な儀式を習慣化して、ブツタ様の再来などと悪霊におだてられながら、ブツタ様の説かれたクク行者の愚ククにも気付かず、八正道などは生活の片隅に追

いやり、自らの神格化に酔って、正当な仏教の教えとも遠く離れて、あるまじき殺人兵器を造り、無差別殺人に走る、つまり、完全にサタン又は悪霊に支配された悪魔教であったということでしょう。

また、何故現代の若者がやみくもにカルト教団に走るのかと言えば、それは幼児期よりファミコンなどに親しみ、母国語の日本語使用で左脳の発達が著しく、それに比例して右脳も音楽などで発達してくと、どうしても感性面、情緒も発露、充足の対象を求めてさ迷うようになるのです。それが教育の場で得られない。だから社会に出て、その対象を求め、そこにおいて自己を確立させよう、自らの人生を勝ち取るう、とするのです（人間は精神面を満たすのに動物のように音の快さのみでは充分だとは感じられない）。やはり言語や文章理解を経て、人生観、

哲学（宇宙や人間との関わり合い）も習得したり、悟ったりしたい。それによって生活面の色々なトラブルや不明の事態を自分なりに処理し、出来る限り悩みを解消して明日への活力を得たい、と言うのが人間の自然な精神面の欲求であり、本能を超えた自己を見出し出したいと望むのです——。人はパンのみにて生きるにあらずとイエス様の説かれた、人が人として、神の子に相応しく、また、天に相応しく生きる為の心構えであるのです。

総じて現代の人々は正法者も含めて精神面が虚弱でありすぎます。いくらカカクではなく愛や慈悲が神の属性であっても、悪にへつらい、力の前に容易に屈するようでは、神の子たり得ず、天のメンバーとして迎える訳にはいかないのです。

（一九九五年五月二十二日 口述筆記 千乃裕子）

ラファエル大王補佐

先月千乃様が新刊の発刊の為、本誌の原稿が間に合わず、今月は合併号となりました。その為に少し趣きを変え、旧約、新約の聖書から二、三引用をしましょう。

あなた方正法者は私達天を知る者としても、又、理解を深める為にも聖書の心の糧となる箇所を読み、正法の手引きとして頂きたい。世の宗教信者とはかけ離れて、天の戦士として、世の範となり、啓蒙する者としての心得は、常に心の浄化と魂の研磨を怠つては、悪なる魂、悪なる者に魅入られ、知らぬうちに墮落の途を轉げ落ちる事になると、自ら戒めて、今心の手綱をゆるめているものあれば、天に迎えられる為、天の波動を持つ者となる為、何よりも天を信じ、その仲介者である千乃様を信じ、己れの過ちに気付くこと。己れが正しいとして、天と千乃様に反する行為をする者は、既に悪魔の罠に陥

り、悪魔の王国に捕らわれの身となっていることに気付かねばなりません。

私のこの言葉を聞いてもまだ千乃様への疑いを捨て切れぬ者は、遠からず天から見放され、見捨てられる宿命さだめにあることを覚悟しなければならぬのです。今迄多くの正法者が天と千乃様を裏切り、離れて行きましたが、その咎とがは千乃様にあるのではなく、人も神も信じ得ない、ただ悪霊の惑わしの、悪の波動に負けて離れて行つた背信の者にあるのです。

理性を以て事柄の真髄を見極め、真理を直観する心の鋭さと判断の力は、あらゆる紛らわしい偽の事象を瞬時に切り捨て、悪の波動に捕われず、真実を選び取る能力として備わっていなければならず、又、心して自らその能力を己れのものとするべく、心眼と心耳を澄まし、己れを鍛錬することが望ましいのです。その為には天の在り方と天の語る言葉を良く

理解する為に勉強することが必要です。天の前に己れを恥じるような人間であってはなりません。正法者たる者、いつく天々について考えても、自ら人に為した罪、人の為に正しき事、善き事を為さなかつた罪の為に恥じ入るようでは、天の戦士となる資格は得られぬものと覚悟をすべきです。天の前に立ち、喜びと己れの為した善行により誇らかな心を持てる者のみ、天と共に歩み、天の戦士となる資格を与えられるのです。

(一九九六年十一月五日 口述筆記 千乃裕子)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

苦難の襲うとき氣力を失い、力を出し惜しみ

死に捕らえられた人を救い出さず

殺されそうになっている人を助けず

「できなかつたのだ」などと言つても

心を調べる方は見抜いておられる。

魂を見守る方はご存じだ。

人の行ないに応じて報いを返される。

——箴言24章10～12節

神に従う人は七度倒れても起き上がる。
神に逆らう者は災難に遭えはつまづく。

——同16節

唇をよそおつても憎悪を抱いている者は腹に欺きを藏している。

上品な声を出すからといって信用するな

心には七つの忌むべきことを持っている。

——同26章24節～25節

うそをつく舌は憎んで人を砕き
滑らかな舌はつまづきを作る。

——同28節

3 心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

6 義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。

8 心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。

10 義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

11 わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、

あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたよりの預言者たちも、同じように迫害されたのである。

——マタイ福音書（山上の垂訓）

5章3節～11節より

エル・ランテイ (ヤハウエ、エホバ)

今月は一月が二十八日しかなく、原稿もあまり遅らせてはいけななどの判断から、私のメッセージは割愛しましょう。これはミカエルのメッセージの後に続ける追記のようなものと致します。

S波に関連して、千乃裕子様聖護のキャラバン隊及び正法者全般、中でも科学班のメンバーにとり、新たな展開がありました。今月号の本誌に少し訳出頁を掲載する旨、出版社に指示しましたが、ゲリラ側が悪用するS波兵器がやはりニコラ・テスラ発明の、テスラ兵器と呼ばれるものであることが、先ずかつての米国のスペース・シップ、チャレンジャーの撃墜があることを前提に、次の諸事件から類推されます。訳出頁には、それと同効果の実験が一九〇八年にテスラによって行なわれ、不幸にも中央シベリアのツングースカ川周辺に誤って到達した、との

推論がなされています。千乃様参照のククオークク誌二月号の関連記事には、その破壊度の凄じさといリジウムという金属粒子が、倒れずに辛うじて残った松の木の樹脂に通常の十倍も含まれていたことと、地上からの粒子含有部分の幹の高さの位置から見て、地中ではなく、大気中に含まれていたものと見做され、且つ隕石ではないこと(クレーターの痕跡も地中の変化もない)。しかし、大方はチリと水素やヘリウムのみの彗星でもない。火球の爆発の影響が、彗星にしては強力、且つ破壊的でありすぎる(TNT 火薬一五メガトン級)及び、それについての科学論文が(旧ソ連)ロシア科学アカデミーであり、米国ではなく、イタリア人の一物理学者であることは過去の例から見てそこに何らかの重大な軍事機密事項が隠されていると推論するべきでしょう

う（イリジウムに関しては、テスラの住居のある町からビームが運んだものと推測される）。

更に九六年十月二十四日号の『ネイチャー』誌など米国の科学雑誌に突然にその論文が掲載されていることも、S波兵器が旧ソ連KGBにより、資料が盗まれ、開発された事実、及び（一九五二年の）米大使館の壁の中に仕掛けられた対生物S波兵器様のも（マイクロ波効果）（J I誌九六年四月号諸星紀美子さん原稿、科学トピックス(S)参照）が旧ソ連側からは、米国がどの程度S波兵器に関して知識があるかを見る為のもの、と知らされていた。そして、数年前、レーガン政権当時の米スペースシップ、チャレンジャー撃墜事件については、恐らく旧ソ連側のテスラ兵器によるミサイル撃墜が可能であるかどうかを試したものでしょう。そして昨年十月の、ツングースカ事件は隕石であるとか彗星であるとかのすり替え内容の科学論文——それはやはり、S波兵器が、千乃様周辺で調査され、対生物兵器の形で日本全国に工作された事実を論証されそうになって、慌ててロシア側としての隠蔽策と、米国側もそれに

間接的に協力している。UFOの存在、宇宙人の実在共に、このテスラ兵器を軍事機密とする政策が今も有効であることを示すものです。

そして更に、日本共産党が旧ソ連の元KGBスタッフの協力と支援により、対生物テスラ兵器を用いて反共グループ潰しと千乃裕子様暗殺を目論んでいる。その目標は、国際的な赤化計画であると論証出来るのです。

これが現実の日本共産党の地下活動の姿であり、J R東日本の労組他、新左翼過激派各派（革マル、中核、革労協）の主導権争いと政治闘争の激化や、自虐史観に基づく教科書（左翼の教育界や進歩的学者が各種共産党の関連市民組織の支援により、出版させたもの）の強要など、これらは政府と自由陣営への陽動策戦にしか過ぎない。この全国的な赤化の波に対し、公安活動は更に強化されねば、これらを食い止めることは不可能となるでしょう。旧ソ連人の狙うものは、日本とアジア全域の共産化であり、次は米国という自由人の駆け込み寺を一挙に潰すことにあるのです。それが見えぬようであれば、自由

陣営たるもの、存在の意義を失うでしょう。

勿論これに関しては、千乃裕子様聖護のキャラバン隊員の無知と、参加ボランティアの盲目と、総員の怠慢による内部からの千乃正法潰しが最大の責務を担うべきものであり、エゴイズムと無知による身勝手な退会者や背反者全員による天への背信の罪によるものです。昭和天皇亡き後の新人類の暴走が、第二次大戦を生命を捨てて守ろうとした高貴なる皇軍の戦士と日本国民の犠牲を無に帰せしめた、その大いなる罪の償いを共産政権下で自らの生命と苦しみで為すか、地球が共産主義者の手により人類滅亡の極に達するがままに放置するか、いずれかの選択しか残されぬことになるでしょう。

天が千乃裕子様を選び、天のかけ橋となり正法者、いえ地球人類のリーダーとして活動力を与えようとあらゆる努力を為したにも関わらず、正法者と自称する偽善者の群々がその機会を潰したのです。も少し少しでも天の犠牲と七千年の長きに互る努力に報

いる忠誠心が残っているならば、私が今日あなた方に知らしめた、世界（特に旧ソ連の残党がテスラ兵器を駆使しての）左翼勢力の結束と世界支配へ向けての陰謀を打破する為の何らかの策を練らねば、地球上の自由陣営は壊滅されるのを待つのみとなるでしょう。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

今回千乃様による、私のメッセージ口述筆記への妨害は凄じく、恐らくS波によるモニターによって介入し続けているものと思われます。これが正法者への天の文証となるのを妨害する為の、ゲリラ側政治委員の野望と旧ソ連の残党への忠誠心によるものでしょう。政治委員と元KGBスタッフの結び付きに関連して千乃裕子様の推論もいかに的を射ているかが、自ずから立証されるものです。

（一九九七年二月二十八日 口述筆記 千乃裕子）

私エル・ランティからのミカエルのメッセージに補足修正も少しあります。今月号諸星紀美子さんの「科学トピックス」のマックススウェルによる（アンペール）の回路定理は、コイルに電流が流れると右ねじの進む向きに磁場が発生するという法則との説明により、ゲリラの車の補助のライトやヘッドライトを用いての攻撃は、将にそれを示すものと思われまます。市販の補助ライトは先が尖り、右巻きのコイル内蔵であるとすれば、収束ビーム発射に適し、且つ青色であることは、強いビーム放射となり、S波攻撃に適している（科学班リーダーより）。更に片方には左巻きのコイルを設置すれば、マイクロ波や低周波の電流を流すと、両側のライト間に磁場（スカラー場）が発生、それがベクトル・ポテンシャル

エル・ランティ （ヤハウエ、エホバ）

として目標に向けて移動し、到達、侵入する。電流の強度は自由に調節する。この方法であると、通常のテスラ兵器の様に45度に交差させなくとも、近接距離であれば、誤りなく、車体などのかかなり大きな電磁場に、駐車中であれ、走行中であれ命中する。

もう一つ重要な情報として、科学班の正法者から得たものに、悪名高いTBSか日本テレビの討論番組で、昨夏辺りに、電磁波障害に関連の物が放映、米国からWHOの責任者などと呼び、討論内容に鉄塔などが取り上げられたそうです。米国では取り締まりが厳しく、小学校など運動場でも（恐らく変圧室）磁場の強い所には生徒は近付かせない。しかも市民運動で鉄塔を撤去した市もあるそうです。ところが日本側の電力関係の責任者は高圧線の周辺の2

ミリガウスなどは被爆とは言えない。地球の磁場は500ミリガウスだから比喩にならない、などと発言。しかしこれはサギ的なごま化して科学班メンバーが地球の磁場は静磁場で、送電線のものとは交流により発生の動磁場だから内臓へのショックが大きいとコメントしておりました。だから鳥類が電線に止まらなくなったのでしょうか。(巧妙な)送電漏れの箇所が異常に増え(貴山楓子様「雑ノート」参照)、し

かもS波を搬送させるので心不全などが起こり易く、長野県のレンジヤク五十三羽の落下死などの事件が起きたのです。電力会社の安全を力説する折り込みチラシなどサギも同然です。明らかに人命が危険に晒されており、O-157感染も、重力波(マイクログ波や低周波により構成の)による免疫力低下で死亡に至るケースが増えたのです。

(一九九七年五月四日 口述筆記 千乃裕子)

今月は非常に重要な内容の証をしなければなりません。

実は私が千乃様宅でサタン・ダビデ、即ち、私の双子の弟、エル・ダビデ・カンターレ子爵を（後にエル・カンタルーネ王として即位、死後サタン・ダビデに変身）その野望と悪業の数々のゆえに、その妻ヘラ（エル・ヘレナ）と共に、一九七八年二月十三日、午前十二時三十分、天とサタン勢の二度目の死闘の中に、私の手で滅しました。その後高橋信次氏の裏切りもあり、それについては『天国の証』に詳述してある通りです。

それは実は二度目の闘いで、サタン・ダビデを滅したはずが、再び悪の軍勢をかり集めて千乃様を襲って来たがゆえに、最終決戦となりました。そしてサタン夫婦を滅した後、私は自殺を装い、その後の

エル・ランティ (ヤハウエ、エホバ)

サタンの生き返りを警戒して姿を隠し、色々な場所や国を廻り、秘かにサタン夫婦の出現を見張っていたのです。霊として生きていた間のサタン・ダビデの跳梁は凄まじく、天と地上の支配を望み、人心を巧みに操って、ヤハウエ（アツラー）の唯一神を奉じるイスラム教、ユダヤ教、キリスト教と呼ばれる三大宗派も、ダビデの介入しない箇所はない位、善と悪の両面を一人演じて、救世主と悪魔の双方をあぐどく装って見せたのです。時にはミカエルを、他の時には私の代りにヤハウエと名乗り、人々の前に現れる。時にはガブリエルやラファエルを。その結果、天と人との調和した信仰の世界は、サタンの悪意の誘導の下に残酷な戦いの場面に変じ、異教徒への迫害と変る。時にはキリスト教徒の迫害となり、天を信じ、従おうとする者に特に周囲の権力者の無

理解と可酷な扱いが生じるように計ったのです。

日々神の恵みの下に生きんとて総てを神への献身と祈りに捧げたにも関わらず、神を信じる事は天に於て何の栄光にも榮譽にもつながらず、天に於ける霊の死のみであったとは誰も想像し得なかつたでしょう。永遠の生命を天の賜物としてひたすら祈り、天に尽くし、求めたものが、サタンによる自らの魂の殺害であるとは誰も考えず、又、一生を人々の救済に捧げた偉大なる魂、ブツタ様やイエス様までサタン・ダビデに次々と殺害され、天を支配するものは天の王である私、ヤハウエ、エホバ、エル・ランティではなく、サタン・ダビデであるとなれば、地上の人々の未来は真の闇の世界にすぎなくなります。決してそうあつてはならない。

天の王として、私は地上と天の善なる魂を救わねばならない、と強く決意しつつも、サタン・ダビデは私の双子の弟であることが、長期に亙り、憎しみと裁きの手を鈍らせ続けました。この千乃裕子様は私に決断の機を与えて下さったのです。飾らぬ心と善悪に基く判断と曇らぬ正義の目で、ラファエルと

共に、私の決意を促し、進言して下さったのです。

この真の破壊者を滅さねば、天は法の下に真理に生きることを働かずと——。長くなるので省きますが、その折の心情は『天国の証』に書きました。

しかし既にサタン・ダビデはカール・マルクスをして共産主義思想を生み出させ、悪の種を世界中にまき散らし、増殖させた後、遅きに過ぎた私の断首でようやくにその悪なる魂の死を迎えたようです。その間にダビデを上廻るサタンが共産主義者の支配層から次々と生まれ、世は更に混乱と破壊の様相を呈しております。この混乱と破壊の世が生じるに至ったのは私一人の責任です。しかし自殺は何の解決にもならぬ事を熟知しており、私の責任に於て世の正常化を計るべく、人知れず数年に亙り努力を続けました。

その間に岩間文彌氏と七天使の協議により、一連の天国シリーズ続篇が出され、しかし学識者や当時の善霊達は、モーセ様も含めて殺されており、七天使は断片的な記憶と情報に基き、助言を致しました。(愚かなキャラバン隊員は、使命感に欠け、

S波防御作業に互いの協力なく、協議もせず、只千乃様を警戒するのみで役に立たず、ゲリラは手を変え品を変え、千乃様を眠らせ、口述筆記を阻止しようとします。) 非常に事を困難にしたのは、実は私はヤハウエ名を継承しておりますが、四代目であり、エル・ソラッティーヤ王(私の父)が三代目、モーセ様の時代のヤハウエであり、二代目ヤハウエからの引き継ぎなど総て亡きエル・ソラッティーヤ王によらねば、正確な史実は得られないのです。特に大天使達はサタン・ダビデの策謀を阻止し、私と善霊達との意志の疎通を計るに忙しく、又、天使名も継承され、その間にサタン・ダビデの先代の大サタン(ベー・エルデを支配していた者)が追放されて、やはりこの地球に来ておりました。古代の残酷な民族性や、マヤ・アステカ文明などの野蛮で残酷な民族の習性は悪霊として、長く生き延びたこの大サタンによるものなのです。

ダビデは恐らくこの者に手引きをされたのでしよう。地上を支配した王が天にて被支配者になることは自尊心が許さなかつたのです。そして大サタンは

いつの間にか消えましたが、あらゆる奸計を練り、「悪の王国」の総合プランを完成して後、生前に一人の王であった者として、天の支配権をも獲得する為、ダビデが殺したのでしょうか。

私が四代目のヤハウエとして天を治めるべく王位を継承したのは、西暦前二年です。それと共に七大天使も世代交代をしたのです。

更に霊の世界と宇宙船や宇宙飛行士の世界とは協力しつつ、お互いに異次元の世界であり、善なる者には善霊が、悪なる者には悪霊のそそのかしがあったこと。しかし一万年前後の古代文明は、大サタン出現までは、のどかな善の世界であったことをお教えしておきましょう。古代史はそれを証明しているはずです。

ここに『天の奇蹟』(中巻)、モーセ様の時代考証の誤りを書き変える必要が生じておりますが、岩間文彌氏が浅薄にも近藤等の迷説に引きずられ、背反して居り、正法者側からの説得が成功すれば、可能となるでしょう。サタン・ダビデや左翼ゲリラのS波兵器とその巧妙且つ陰湿な攻撃を千乃様の属性と

見誤った者総てが背反、背信行為に走るといふ悲劇が起つたのです。それは森瀧英之さんを始め、木村忠孝医師まで徹底して欺かれました。私の代において、天の王国と法は、それを死守すべきでありながら、愚かな正法者の使命感の欠如により、サタン・ダビデとその地上の輩下である共産黨員や共産主義信奉者により、今將に崩壊しつつあるのです。辛うじて小賀竹留様により、S波や有害電磁波による被爆実験の詳細な報告があり、共産党系ゲリラの迫害が千乃様をどのように歪めて正法者に伝えていたかが立証されるはずで。

更に、サタン・ダビデやゲリラ側の策謀により、正法者全般が千乃様に関し、不名誉なイメージを抱かされておりますが、常識的な判断をすれば、リビドーとは何等関わりのない会話の、あるいは電話の、それも、一、二分で既に相手にホルモンのアンバランスより生じる自律神経の失調症状が強く現れるなど、凡そ前代未聞の、精神医学史上にも類を見ない現象でしょう。天とサタン・ダビデ勢との戦いで、二十年前に、心臓をサタンに攻撃され、弱らされて、

それ以来、千乃様を支える天のエネルギーが相手に強く感じられるのみで、その他の不自然なものは総て人為的に外から加えられるもの。例えばS波のような、生体には強いストレスを与えるものが、ゲリラから各人にも附加され、それを理解出来ずに単純に千乃様の生体エネルギーと見誤る。それが千乃様を支える天のエネルギーとゲリラからの過剰なS波ビームのみであることに思いを致さない。思考がS波の為に柔軟さを失ない、健康管理も精神的な余裕もなく、周囲の原因となるものについて（防衛シールドの不備などの）考える余裕なく、目の前の原因らしき物を、神経症的に取り除き、それで安堵しようとする。そのくり返しなのです。それは私達天のメッセージを通じての状況の説明にあるように、正法者が闇雲に自己を見失う程の不自然なストレスの連続など、千乃様一個人では到底不可能な（しかも排尿や失禁はリビドーなどと言える範囲を遥かに越え、持続的且つ大量のものである）その生体や一個体の生活反応の常識レベルを超えた現象を、机上の空論に慣れている、平面思考の日本人が自らの妄

想に更に惑わされて、千乃裕子様という天と聖靈の仲介者を見誤り、そのまま千乃様の死を正法者の愚かで反って早め、罪の意識なく、天を卑めている——それが即ち左翼ゲリラの描いて見せる幻影であるにも関わらず、真実を求めようとしなない。千乃様の人格を正しく見ることなく、歪めた解釈のままであるならば、天は正法者の殆どの者を見捨てて肯んじない。むしろ天の浄化の為にはその方が益となる、とそう考えております。千乃裕子様の人格像をサタ

ンや左翼の望み通りに汚す者は、天がその者を見捨てて省り見ない。そう断言致します。

あなた方は又もやこれが最後の審判の期であることを忘れております。左翼ゲリラのこれだけ徹底して千乃様の人格像を汚して見せる手法は、旧ソ連の支配層と似て、再び悪の支配を夢見てその残党が暗躍していることは、冷静な判断力を働かせれば容易に推断し得ることです。

(一九九七年五月三十一日 口述筆記 千乃裕子)

予測されていたように今年の夏も、原因食材の突き止められないO—157感染が、より毒性の強い形で（恐らく耐性菌となって残存しているもの）発症しており、日米双方の患者の発症例から見ると、血清データの分析から米国では七〇年代から、日本では七三年に発症例があったそうです。これは恐らく米国で、旧ソ連のKGBなどによるS波実験の対象とされたヒッピーなどのエイズ発症と蔓延の時期に相当し、或る者にはO—157感染が起こったのだらうと思われまます。

日本に於ては、その時期、S波用個人兵器が開発段階もしくは、完成して実験的に用いられていたことを示すものでしょう。更にエイズ自体は、葉害エイズの形で欧米や日本他のアジアにも飛び火して蔓

エル・ランティ (ヤハウエ、エホバ)

延、ようやく下火になった時期に、同様の免疫力低下による、更に劇性の感染症が野火の如くに広まりつつあるのです。

これに関連して牛海綿状脳症（狂牛病）、アフリカのエボラ出血熱（これは頭痛、高熱、咳を伴う胸痛について、嘔吐、下痢があり、その後吐血、下血が起こり、強い中毒症状と全身の毛細血管内に血栓が多発する症状から死亡することが多く、致死率は八割に近い）など、明らかにS波兵器使用による疾患などの新たな感染症の発生を見、又、結核やインフルエンザなど呼吸器系の既存の感染症が、がんや心臓病と並行して治癒率の低いものとして脅威となっていること。更に老人性の骨粗鬆症も発症率高く、これら全体を通して見ると、カルシウムの減少又

は溶解促進による疾患及び呼吸器系、消化器系（病原性大腸菌によるもの）及び循環器系やがんなどの成人病。カルシウム減少症（？）による疾患を除き、消化器系、呼吸器系及び循環器系疾患は、S波

による低酸素血症から惹き起こされ、骨粗鬆症などのカルシウム減少及び溶解による疾患は、やはり疑いもなくS波（スカラー波）兵器によるもの。更に牛や羊の海綿状脳症は、スカラー波の長期照射による、ヘモグロビンの酸素と水素結合を干渉し、阻害する結果の低酸素血症と細胞内の水分を共振させ、熱エネルギーに変換する化学変化であり、O-157感染やエイズ発症の英国や米国のS波兵器使用をはつきりと示唆し、日本においても前述の疾患と症状から見て、S波兵器による感染と疾患であることは、小賀竹留様によるS波、電磁波被爆の論文や、諸星紀美子さんの「電磁兵器最先端」科学トピックスによっても明らかです。

その主原因として挙げられるのは、ウイルスの進化でも牛など保菌動物からの感染でもなく、本誌で私や千乃様が繰り返し警鐘を発している電労の送電

線の違法工事や、既述の道路公団関連の多種類の奇妙なS波吸収、放電用で、一メートル間隔の工作物からの大量の電磁波や重力波、S波の漏電と大気や土地汚染によるものです。

小賀様の今月号論文「電流を互いに逆の二方向に流した時に発生する重力子の説明」により報告、論証されている、送電線の周囲に電流が流れる時に生じる、ドーナツ状の磁界（AB・ハチソン効果）の内部も周囲もスカラーポテンシャルスカラー波が必ず生じ、磁界はドーナツ状ではなく、スカラー波を含めると円筒状であること——更にこの事から、各電柱内の鉄筋の支柱とコンクリートの電柱内部も、磁界の内部がスカラー・ポテンシャルスカラー波で充満していると見做して間違いはないでしょう。

その送電線の設置状況も、漏電を常時自動的に行なうように工作してあり、それを立証する為にもそれにより、既に地磁気の異常が生じて、ここ日本においても地上から空中への雷放電が起こり、鉄塔の電線が焼け切れるなど異常現象が近年見受けられま

す。これは地中に溜ったスカラー波や電磁波が地球の自浄作用により、放電されていること。並びに『ニュートン』七月号に掲載の拓殖大学工学部教授巻田和男氏による論文「地球磁場が消える？」、地球磁場の異常、ブラジル域周辺の異常な地磁気の減少とその故にバン・アレン帯からブラジル南部域に高エネルギー粒子が地表付近にまで入射し、降下して、大気やイオン粒子と衝突し、X線を放射、結果としてこの地域の一〇〇キロメートル以下の高度で、放射線被爆量が異常に高く、人工衛星などの測定器がブラジルの上空では障害や劣化が生じるので使用出来ないとあります。且つ、シベリア域では強度が強く、他地域も増減がかなり異なって、その周辺部は急激な減少が見られる。地球内部では、ブラジル域の外核内に、内に逆向き磁場「核スポット」が出現し、今後強度を増し、世界的に広がっていくとすれば、現在の地球のN・S双極子磁場（双極の一本の棒磁石の形状）の逆転を引き起こす可能性があるとあります。

この地磁気の減少はこの一〇〇〇年の間に減少を

続けているとありますが、従来の自然な減少率よりも、地中のS波による過剰帯電と常時汚染が、地中からのS波放電を余儀なくするほどの量であるので、その放電に伴って、ブラジル南部域の地磁気が日本側に流出する。更にシベリア域の地磁気が強いということなので、その一帯も地磁気が増大する原因がユーラシア大陸の英国、ロシアなどでS波汚染を行なっている事。更に日本のように地中に大量にS波をアースしないので地表近くを流れ、シベリアの方に集まる——といったことではないでしょうか。

更に不吉なことは既刊号で何度も説明したように、左翼つまり共産党系列のゲリラやシンパサイザーが日本などのS波操作をあまりにも性急且つ大量に行なうので、これは単なる地磁気の消失や逆転ではなく、小賀様の論文にある通り、地球軌道の変化と、遂には太陽の核爆発を惹き起こし、太陽系そのものが宇宙空間にさまよい出るか、消失するかの大变事につながる恐れが生じているのです。しかもそれが一五〇〇年後ではなく、五〇〇年後。五〇年後

には人類と自然界はS波汚染を行なっている国でま
ず死滅し、行なっていない国では徐々に伝染病など
が蔓延し、一〇〇年後に、となります。

科学者も学識者ももうそろそろ私達の警告に目を
向けて、しかるべくアピール行動を起こして頂かな
いと、事はがんや〇―157感染のみでは終わらな
せん。携帯電話もインターネットも地球規模で行な

うと、どうしてもやはり、自然界のみならず、人類
の死滅につながります。

日本だけでもこの違法工事を改めて、漏電を阻止
すれば、自然界も生態系も戻り、人も〇―157な
どの感染症に掛からなくて済むのです。

(一九九七年七月五日 口述筆記 千乃裕子)

あなた方新人類の大方は、電子機器などの普及した現代に生きる者として、現実よりも架空の〓仮想現実〓を通し、実際に起こり得る事象、現象よりも、より非現実的な、空想に近い事柄も、実体験を経ずに〓可能〓、〓起こり得る〓事柄として受け入れ、無批判にそれを自らの妄想（空想）の論拠として受け入れる、愚かな思考癖を有しています。それが犯罪に関する思考や行動も規制せず、他者への理不尽な干渉も自らは認し、宇宙や社会の秩序を乱しても、罪の意識を持たぬ、恐るべき人類となった所以です。——天の法と世の倫理から排除すべき人間として成長せざるを得ない、精神的には永久に成長せず、（原始的なる思考、行動のままに）歪みを持つ劣等なる人格として生きるべく、宿命を与えられていると言ふべきものでしょう。

エル・ランティ （ヤハウエ、エホバ）

かように大方の新人類の如く、罪の概念を持たぬ者に法を説き、行動を律するべく教えても、各人が背負う〓倫理なき社会〓という〓負の遺産〓を例え天が指摘しても、その歪められた思考や行動の修正は、自ら求めねば可能でなく、与えられる罰と裁きにも、自らの過ちに気付くことなく、滅ぼされる——それは動物以下の、覚性なき、愚かなる人類の悲劇としか形容すべき言葉を持ちません。それゆえに古代の人類は、天より降りし神々に幾度も滅されてきたのです。新人類の愚かさは、天の選民としての、ここ日本国に長じ、神の守護の下、栄光と英智と繁栄を与えられた。それを感謝するどころか、この忘恩の民は、人としての義務と責任を忘れ、得られる限りの放逸なる人生を享受した。それがゆえの人類の滅亡であり、神の選民の罪が世界の諸民族を

も巻き込み、世界を滅す宿命を与えられる一大悲劇ともなつたのです。

「千年王国」は悪魔の甘言に過ぎず、更にこの国以外の国に於いても、人類の終末の秋^{とま}が迫る迄、天は幾度となく正当なる預言者を遣わし、罪を犯し続ける人類に警告を与え続けた。にも関わらず、悪魔の与える奇蹟のみを信じ（ファチマの奇蹟、聖痕、総ての罪をあがなうべく、十字架の刑に処せられた、人類の救世主としてのイエス・キリスト、悪魔より

与えられし、それ等残虐なる奇蹟を信じる殉教者の数々——）、その人類の無知により支えられし悪魔の宗教宗派の蔓延——それ等から何一つ真の善と正義と愛の本質を悟り得なかつた人類は、天の救いの及ばぬ所に堕ち、今天の慈悲の手より最期の離別を宣告されつつあるのです。何故に真理から切り離されるか理解し得ぬままに——。悪魔と天の技を識別し、見抜く魂を与えられぬままに——。

（一九九九年六月十八日 口述筆記 千乃裕子）

レイナ・エル大天使長

クリスマス発刊号として、天界から次なる聖句を皆様にお贈りしますとのことでした。

詩編から――

主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ。

主は信仰ある人を守り

傲慢な者には厳しく報いられる。

(31章24節)

箴言から――

苦難の襲うとき気力を失い、力を出し惜しみ

死に捕えられた人を救い出さず

殺されそうになっている人を助けず

「できなかつたのだ」などと云つても

心を調べる方は見抜いておられる。

魂を見守る方はご存じだ。

人の行いに応じて報いを返される。

(24章10〜12節)

神に従う人は七度倒れても起き上がる。

神に逆らう者は災難に遭えばつまずく。

(同 16節)

上品な声を出すからといって信用するな

心には七つの忌むべきことを持っている。

(26章25節)

悪を行う者らは裁きを理解しない。

主を尋ね求める人々はすべてを理解する。

(28章4～5節)

うそをつく舌は憎んで人を碎き

滑らかな舌はつまずきを作る。

(同 28節)

神に従う人は悪を行う者を憎む。

神に逆らう者は正しく歩む人を憎む。

(29章27節)

教えを捨てる者は神に逆らう者を賛美し

教えを守る者は彼らと闘う。

千乃裕子様はアトランティス大陸の末裔の王族を出自とされております。私共現天上界がそのように計画しました。

(二〇〇二年四月二十五日 口述筆記 千乃裕子)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

ヨハネの黙示録から——

わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。

この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい。」

また、別の第二の天使が続いて来て、こう言った。

エル・ランティ
(ヤハウエ、エホバ)

「倒れた。大バビロンが倒れた。怒りを招くみだらな行いのぶどう酒を、諸国の民に飲ませたこの都が。」

また、別の第三の天使も続いて来て、大声でこう言った。「だれでも、獣とその像を拝み、額や手にこの獣の刻印を受ける者があれば、その者自身も、神の怒りの杯に混ぜものなしに注がれた、神の怒りのぶどう酒を飲むことになり、また、聖なる天使たちと小羊の前で、火と硫黄で苦しめられることになる。その苦しみの煙は、世々限りなく立ち上り、獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぐことはない。」ここに、神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である。

(14章6～12節)

また、わたしは天からこう告げる声を聞いた。「書き記せ。『今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである』と。』」
「靈々も言う。『然り。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。その行いが報われるからである。』」

(14章13節)

すると、玉座に座っておられる方が、「見よ、わたしは万物を新しくする」と言い、また、「書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である」と言われた。

また、わたしに言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。渴いている者には、命の水の泉から価なしに飲ませよう。勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐ。わたしはその者の神になり、その者

はわたしの子となる。しかし、おくびよな者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、みだらな行いをする者、魔術を使う者、偶像を拝む者、すべてうそを言う者、このような者たちに対する報いは、火と硫黄の燃える池である。それが、第二の死である。」

(21章5、8節)

都には、高い大きな城壁と十二の門があり、それらの門には十二人の天使がいて、名が刻みつけてあった。イスラエルの子らの十二部族の名であった。東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。都の城壁には十二の土台があって、それには小羊の十二使徒の十二の名が刻みつけてあった。

(21章12、14節)

ミカエル大王

イエス彼に言ひ給ふ「われは道なり、真理なり、生命なり、我に由らでは誰にても父の御許にいたる者なし。汝等もし我を知りたらば我が父をも知りしならん。今より汝ら之を知る、既に之を見たり。」

ヨハネ傳 14章 6節

終末、審判期の救世主、ミカエル大王妃、千乃裕子・レイナ・エル大天使長にも同じ権限が与えられ、彼女に由らざれば、何人も天の国にいたるを得ぬ事を、この時、この場に於いて、天の国の最高次元の靈、エル・ランテイ・エホバ・ヤハウエ、ミカエル大王、ラファエル大王補佐の証と致します。

(平成十四年(二〇〇二年)八月二十五日)

口述筆記 千乃裕子

——天界に於ける変動——

本来ならば、口述に協力を続けていた私の妻の病状悪化と共に、このメッセージ欄も閉じるべきでしたが、天に昇つて来られる人々の為に、天上界高位霊の方々の新たな変動をお知らせしましょう。

新たなメンバーとは、本誌二〇〇一年九月号の鷹取一郎様による「金星の衛星人とイエス・キリスト」の文中、掲載の写真に参照されるように、将に地球以外の太陽系惑星、しかもクヴィーナスクと呼ばれる美しい惑星からの来訪者、ヴァリアント・ソー氏及び、ダン、ジルの御夫妻とソー氏夫人、タニアさん、更には、別の図書からの写真も紹介されている、ドクさん（船医）、ソンさん——総てソー家に属する人々ですが、この方々が現天上界のメンバーとして参加されました。

ミカエル大王

私ミカエルを長とする地球の唯一の霊団、高位の霊が形成する天上界のメンバーとしての参加です。

そのきっかけは、前述の論文以外にも、ヴァリアント、ダン氏等の写真掲載の著書頁コピーを妻がキヤラバンにて受け取り、人間型の異星人に少なからぬ興味を覚えて、現天上界への招聘を私に希望した事に依ります。部下の善霊達を通じて、それをお願いした所、以前に御紹介のアラファト・アテルサタ様の御長男でもあり、気軽に来て下さいました。更にヴァリアント・ソー氏等は、地球に留まって居られたが故に、最後の方の数年前の死亡時より、偶然にも多くの金星人がこの星に居られて、私共のキヤラバン訪問が可能であったのです。

元々善隣友好の平和親善使節として、地球人類に働き掛けておられた関係上、そしてその強いキリスト教信仰から、正法会とそれを擁護する天とは同質、

同目的の部分も多く有り、理解し合つて、高位の天のメンバーと成つて下さつたのです。

新しい（金星系の）地球霊団の高位霊は次の如くです。

ヴァリアント・ソー 通称ヴァル大天使長

（科学技術担当）

タニア・ソー 通称タニア大天使（地質学）

ダニエル・ソー 通称ダン大天使（科学技術）

ジュヌヴィエーブ・ソー

通称ジル大天使（地政学）

ゲシュティポール・ソー

通称ドク大天使（医学全般）

ティーリエル・ソー（ドク夫人）

通称ティール大天使（地勢学）

ソニエル・ソー 通称ソン大天使（救急医療）

尚、レイナ・エル大天使長（千乃裕子）はそのまま、大天使長として、金星系の方々と協力し合い、今後の地球霊団を支えて行くべきメンバーであり、私ミカエルとラファエル大王補佐、正法系の大天使

や大天使補佐共々、地球人類の存続と繁栄に寄与する事に成ります。

この合同の高位の霊団はしばらくは地球を離れても、必ず戻り、あなた方の悪との戦いに、勝利に向けての助力を惜しまず、再び導き続けるでしょう。

（二〇〇二年十月四日 口述筆記 千乃裕子）

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

箴言から――

怠け者は欲望をもつても何も得られず

勤勉な人は望めば豊かに満たされる。

神に従う人は偽りの言葉を憎む。

神に逆らう者は悪臭を放ち、辱められる。

（13章4、5節）

神に従う人の光は喜ばしく輝き

神に逆らう者の灯は消される。

（13章9節）

言葉を侮る者は滅ぼされ

戒めを敬う者は報われる。

賢人の教えは命の源。

死の罨を避けさせる。

見識は優雅さを伴う。

欺く者の道は手ごわい。

思慮深い人は皆知識に基づいてふるまう。

愚か者は無知をさらけ出す。

神に逆らう使者は災いに遭い

忠実な使いは癒す。

(13章 13 ~ 17節)

諭しをなおざりにする者は貧乏と軽蔑に遭う。

懲らしめを守れば名誉を得る。

(13章 18節)

知恵ある人は畏れによつて悪を避け

愚か者は高慢で自信をもつ。

(14章 16節)

ヴァル大天使長

初めまして。私はこの度、地球号天界の大天使長（科学技術及び神学全般担当）を、この十月に任命され、初めての大役としての任務を遂行することに成りましたヴァリアント・ソー、即ちヴァル大天使長です。

一九五七年の三月に初めて、ヴィクター・ワンで金星より数名の友人共にこの惑星に到着、平和の特使として故アイゼンハワー米大統領やニクソン副大統領と会見、彼等の実験対象としての核エネルギー及び原子爆弾使用は、地球上の何の空域に於いても、爆発実験を行なえば忽ち、大気分子間の陽子、中性子核に連鎖反応を起こし、地球上の大気圏が熱爆発、地上の核施設及び研究所の熱核反応で、地上は火の海に成るだろうと警告致しました。

要するに核の兵器利用を断念させるべく、言葉を尽くして説いて廻ったのです。結果はクノーク。殆どの人々が、開発実験の科学者も含め、それには肯定的でした。彼等にとつては、空気の爆発など有り得ないという見解で、それは後に周辺の数ヶ国に交

渉しても同じ事でした（実は私自身も同様の楽天的な考えを持ち、熱意に欠けるものであったかも知れません）。つまり、大気中の火薬等の爆発は、或る短時間内では促進され、（空気が無い真空管中では、大きな熱核反応を伴わずに、化学反応のみに抑える事は可能ですが）宇宙空間では飛来する様々な粒子が打つかり、熱核反応を生じない元素は殆ど無いと言つても過言では無いというのが、物理的な前提条件だからです。

しかし核兵器の使用は、必ず大気や水質、土壤の汚染を齎らし、人体に実害が有るのは、それに関わる如何なる科学者も熟知しており、出来得る限り核兵器の使用は避けるのが賢明である事も、周知の事実です。核エネルギーによる地球大気の汚染は、それのみに終わらず、常に大気圏外にも流れ出し、近接する他惑星にその弊害を齎らします。米大統領及び政府関係者は私の話を丁寧に聞き、結局その主旨は無視されました。

そして現在はどうでしょう。低開発・後進国であ

りながら、大国に負けじと虚勢を張る中、小国は必ず核兵器開発、所有を旨し、使用禁止を唱えつつ、他国への抑止力として兵器の備蓄を止めない。しかも平和利用として、火力発電に代わる原子力発電所は、ここ日本に於いても、十二道県に設立（原子炉の数は五十四基）、それ以外に研究開発用の原子炉十九基が二府四県に在ると聞きます。それとても、汚染水などの流出他、周囲の汚染対策が厳密に行なわれていれば良し。自然災害などによる汚染物質の管理は、予期せぬものであれば防ぎようが無いのが現状で、その危険度は災害が大きければ大きいほど、各国も含めての対策は決して充分とは言えないものがあります。加えて日本の周辺海域には数ヶ国の原子力潜水艦が潜航しており、災害時には忽ち核エネルギーによる海水汚染が始まると、科学者は予見しております。

大災害により、これ等原子力研究所、発電所、潜水艦等の破壊が始まれば、地球全体の核汚染は止め処もなく、これが恐らく人類及び全生物の終焉に成るだらうと予測します。

若し、私ヴァル大天使長並びに他の六大天使の警告を受け入れるならば、出来得る限り、こういった核エネルギー漏れを防ぐ方策を案出して頂きたい。各国諸機関、研究所に於いて、直ちに始める事。でなければ、私の予言通り、地球はク死の星々と成るは必定です。

ダニエル・ソール

タニア

ジュヌヴィエーブ

ゲシュティポール

ティーリエル

ソニエル

(二〇〇二年十一月二十五日 口述筆記 千乃裕子)

追記

皆様専門はそれぞれに違いますが、金星の物理学者です。七名の方全員——。

ついでながら、原子物理学者も数名、ヴァル大天使長、ダニエル大天使、ゲシュティポール、ソニエル大天使です。

(千乃)

第三章

「聖書の暗号」について

坂卷祝雄

別表(7)

Code,Bible,Bible code

Sealed before God

theory,teaching,doctrine,Pentateuch,Law,Torah

כם לטוים אשמושלשכונותדרשו ובאתשמהוהבאתשמהעלית יכסור זבח יכסו א
 תי דכסונדר יכסונדבת יכסובכרת בקרכסוצאנכסואכלתסלפני יהוה האל
 חידכסאתסובתי כסאשר ברכך יהוה האלהיך לאתעשונך ככלאשר אנחנו ועשיספה
 ניוכי לאבאתסעדעתהאלהמנוחהו אלהנחלהאשר יהוהאלהיך נתן לך ועברת
 רץאשר יהוהאלהיכסמנח ילאתכסוהג יחלכסמכלאיבי כסמסכיבור ישבתסבט
 ריהוהאלהיכסכולשכונשמושסמהתביאו אתכלאשר אנכי מצוהאתסעולתי
 סותרתי ידכסו כלמבחרנדר יכסאשר תררו ליהוה שסחתסלפני יהוהאלהיכ
 סועבדי כסואמהתי כס(ה) ויאשר בשע(ה) כסכיאיין(ו) חלקו(ו) חלה צוהס השמר
 מקום אשר תראה כי אסמקום אשר יבחר יהוה בהבאחד שבט יקשסעלהעלתי ידושם
 דרקבסלאותג פשךתזבחואכלתבשר כברכת יהוהאלהיך אשר נתן לך בכלשעורי
 וכצבי וכאי לרקיהדמלאתאכלוועלהארץ תשפכנו כמיסלאות(ו) לאכלבשעוריך
 צהירך ובכרתבקרך וצאנדוכלנגדך ידאשר תררו ונדבת יד ותרו מתי דרך יאסלפ
 ובמקום אשר יבחר יהוהאלהיך בואתהובנדך ובתך ועבדך ואתך והלוי אשרב
 והאלהיך בכלמלח ידך השמרלדפן תעזבאתהלוי כלימיך על אדמתך כי ירחי
 כאשר דבר לך ואמרתאכלהבשר כי תאווה נפשך לאכלבשר בכלאתג נפשך תאכלבש
 שריבחר יהוהאלהיך לטוים אשמושסו ובחתמבקרך ומצאנך אשר נתן יהוה לך כא
 יך בכלאויתג פשך אדך כאשר יאכלאתהצבי ואתהאילןך ותאכלנה הטמאה הטורי
 לתיאכלהדמכי הדם והאהנפשו לאתאכלהנפשעסמהכשר לאתאכלנו ועלהארץ תש
 למען יטבלדורלבני ידאחר ידך תעשההשרבעני יהוה רקקדשיך אשר יהיו
 להמקום אשר יבחר יהוה

別表(8)

Computer,made by

The Writing of God Engraved on the Tablets (板に刻まれた神の筆跡)

להירעהאשר רב
 רלעשוחלעמו
 ויפזרו ירדמש
 חמוזתהרושני
 לחתהעדתיכיד
 ורחתכתביסם
 שנייעברי הסם
 והירפזוהסכת
 כיסוהלתחמפ
 שהאלהי סמה
 והסכתבס
 ואתהסכת
 שמעיהו שעאת
 קוליהסעוה
 ויאמר אלמשה
 קולמלתמהבם
 חנהריאסריאי
 וקולעגותגב
 ורהואיןקול
 עזותחלושהק
 ולעגותתאנכי
 שמעויהיבאש
 רקרבאלהסג
 הויראאתהעג
 לוסחלתויתור
 ארמשהוילך
 מידו אתהלתח
 וישבראתסח

〔二〕

へブライ語の聖書の中には、個人の情報が暗号化されているといわれています。いわゆる「聖書の暗号」の発見は、今世紀最大の謎の一つとして、世界の注目をあつめました。「聖書の暗号」を要約すれば、へブライ語原典のへブライ文字を隙間なく二次元配列で並べると、等距離文字列の中に、たがいに関連する意味を持つ言葉や文、あるいは数が、しばしば最小スキップ間隔で接近して表れます。つまりへブライ語原典の中に表れる暗号の言葉は、数千の単語で作られた巨大なクロスワードパズルのようなものなのです。

たとえば、ニュートンの名前の近くには「重力」という言葉が現れています。エジソンの名前の近くには「電気」「白熱電球」が現れており、シェイクスピアの名前の近くには「マクベス」「ハムレット」などが現れています。アインシュタインには、文との組み合わせとなり「彼は、現在の現実を覆した」「新しい見事な英知」などがあります。

「聖書の暗号」は、科学的に見て高度な基準を、クリアーしているのでしょうか。

「聖書の暗号」の研究者達は、この発見を広く世に認め

てもらわなければならないことをよく承知していました。そうしなければ、懐疑主義者達にこの「聖書の暗号」が幻想だと考える隙を与えると考え、専門的な統計学の出版物「アメリカ数学学会報」に、論文を委ねることにしました。六年近くにも及ぶ調査の過程において、懐疑主義者が予測するような欠点が発見できずに、ついに彼等の厳格な基準をクリアーし掲載されました。この論文に出されている言葉は、ユダヤの歴史上の賢人三十四人と、その人が生まれた日、あるいは亡くなった日であります。

それでも懐疑主義者達は、反論をしております。他の中にも、同じように関連する言葉が現れると。しかしながらこれは、偶然の範囲内でおこっている出来事であり、これと「聖書の暗号」とは、根本的に違う現象なのです。たとえば、通りに十円玉一個あるのを、見つけたとします。だれもがそこに十円玉があるのは「偶然」だと決め込みます。そう決め込むのは、それがありふれた出来事だからなのであります。では、十枚の十円玉がきちんと積み重ねられていたらどうでしょうか。それは故意によるものか、それとも偶然か。偶然にそうなったことも否定できないこと

は無いのですが、そのことはだれもが同じ考え、つまり、誰かが「目的をもって」十円玉はそこに積まれたのと確信します。この十枚の十円玉が「聖書の暗号」なのです。そして、一枚の十円玉が他の本なのであります。

先生のお名前も聖書の暗号の中に表れます。聖書の暗号の検索ソフトに、先生のお名前「YUKKO TINO」を入力すると、九文字のヘブライ文字になり、モーセ五書の中に一回だけ表れます。出エジプト記18章20節の四八番目に、先生の最初の文字が現れます。これは、最初の文字から一〇五二〇一番目の文字になります。その文字から、一三七九番目毎の九文字が、先生の文字になります。九文字のヘブライ文字は、次の節に一文字ずつ含まれています。

18章20節 あなたは、彼らに定めと判決を教え、彼らの歩むべき道と、なすべき事を彼らに知らせなさい。

19章18節 シナイ山は全山煙った。主が火のなかにあって、その上に下られたからである。その煙りは、かまどの煙りのようにたちあがり、全山はげしく震えた。

20章21節 そこで、民は、遠く離れて立つたが、モーセは神のおられる濃い雲に近付いて行つた。

21章22節 もし人が互いに争つて、身籠つた女を撃ち、これに流れさせるならば、ほかの害が無くとも彼は、必ず、その女の夫の求める罰金を課せられ、裁判人の定めるとおりに支払わなければならない。

22章24節 そして、私の怒りは燃え立ち、剣をもってあなたがたを殺すであろう。あなたがたの妻は寡婦となり、あなたがたの子供達は孤児となるであろう。

23章25節 あなたがたの神、主に仕えなければならない。そうすれば、私はあなたがたのパンと水を祝し、あなたがたのうちから病を除き去るであろう。

25章2節 イスラエルの人々に告げて、私の為に捧げ物を携えてこさせなさい。すべて、心から喜んでする者から、私に捧げる物を受け取りなさい。

25章33節 あめんどうの花の形をした三つの^ぐ萼が、それぞれ節と花をもって一つの枝にあり、また、あめんどうの花の形をした三つの萼が、それぞれ節と花をもってほかの枝にあるようにし、燭台から出る六つの枝を、みなそのようにしなければならぬ。

26章19節 その二十の杵の下に銀の座四十を造って、この杵の下に、その二つの柄のために二つの座を置き、かの杵の下にも、その二つの柄のために二つの座を置かなければならぬ。

以上、九節の中には、先生との関連の文があると思ひます。

18章20節 まさに先生の御使命を、表していると思ひます。

21章22節 身ごもつた女とは、天上界の意向にそつた人類の未来、という子供を託された先生のことであり、S波

の攻撃（撃ち）により未来という子供を流れさせるなら、ミカエル大王様の求めに応じ、その代償を払うことになるという意味だと思ひます。

22章24節 この節は、上の節のつづきだと思ひます。

23章25節 天上界に、仕えなければならぬという意味だと思ひます。そうすることにより、天上界は私達を祝し、病を除いてくれることだと思ひます。

25章2節 このイスラエルは、イスラエルの国に行つて、告げるといふ意味も有るかもしれませんが、これは古代イスラエル王国の血を引く人々のことではないでしょうか。つまり、日本人も含むということだと思ひます。

25章33節 これは、イスラエルのシンボル「七枝の燭台」。以上調べました通り、先生に関連する文が現れています。

次に先生のお名前を縦にして、ヘブライ文字の表を作り

ます。表の作り方の概念は、以下の通りです。まず最初に、長い帯に右から左にヘブライ語の聖書の一番目の文字から全て書き写します。次は、円柱にこの帯を時計周りに上から下に向かつて巻きつけますが、正面に先生のお名前が縦に繋がるようになります。この正面から見たのが、先生のヘブライ文字の表になります。つまり、先生の文字の横の列は、各節になります。また、先生の文字を一つあるいは二、三つ跳びにしますと別の表になります。これらの表を使って先生のお名前の近くに現れる言葉や文をさがします。今までに、以下の言葉が見つかっています。

「Michael」 ヘブライ語で五文字になります。秘められた意味は「Who is like GOD」になります。ミカエル大王様のことだと思います（表参照）。

「Authentic」 ヘブライ語で五文字になります。日本語の意味は、「真正の」になります（表参照）。

「Successor」 ヘブライ語で四文字になります。日本語の意味は、「後継者」になります（表参照）。

「1934」 ヘブライ語で四文字になります。先生のお生まれになった年。

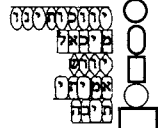
「Japanese」 ヘブライ語で四文字になります。日本語の意味は、「日本人」になります。

「pentateuch」 ヘブライ語で四文字になります。日本語の意味は、「モーセ五書」になります。

「ark」 ヘブライ語で四文字になります。日本語の意味は、「約櫃」モーセ様の十戒を刻んだ二つの平たい石を入れた契約の箱。」あるいは、ノアの「箱船」になります（表参照）。

以上のように先生のお名前の近くに、多くの関連した言葉が現れます。しかし、まだまだ多くの言葉が隠されていると思われるので、出来る限り見つけたいと思っています。（傍線は千乃による）

第3章—「聖書の暗号」について



yuuko tino

Michael

legatee, heir, successor

real, natural, sooth, proper, veracious, sterling, regular, authentic, genuine, veritable, true, sincere, unaffected, AMITY

box, coffer, casket, bin, crate, ark, hutch

עמו יאמר מדה דבריה והאשר אתה עשה לה לעם מדוע אתה יושב לבבך ויכולה עם נצב בעלי ים וכן קרע דער בן יואמר
 ודעתה למתה דרר לכתוב אתה מעשה אשר עשו ואתה תתן זה המלכה עם אנשי יחי ליראי אלהי סאנשי אמר
 שרת שפטו אתה עם ככל עלת אתה דבר הקשה יביא ואל משה וכלה דבר הקטן ישפוטו הסו שלח משה אתה תתן
 להמלכה עם יסכילי כלה ארץ ואתם תירולי ממלכתה נמר בו יקדו שאלה דבר אשר אתה דבר אל בני ישו
 יבירי משה שלי ירד יהוה לעיני כלה עם על הר סיני והגבלת אתה עם סביבל אמר משה שררו לכסעו לות בחרו נ
 יצב בכתחתי תהיה רורסיני יעצלו כלו מפני אשר ירדע לירי יהוה אשר יעלעשנו כעשן והכבשנו ויחדר כלו
 לך דרעלי יתא תהי ויהי נעמך והכה ניםו העם אליהם ולעלת אליהם ויפרק בסו ירד משה אל העם ויאנ
 אליה ילשו אכילאי נקה יהוה את אשרי שא את שמר לישו או זכור אתי יהושע בל קדשו ששתי מים מתעב דרעשו
 דא שרת יעו עבדו ואת מו שורו ואת מרו וכל אשר לרעך וכל העם יראי אתה קטן זאת הלפי ירוסו ואת קולו השנ
 זהבל את עשו לכסמ זבח את מה תעשה וזבח תעלי ואת עלית יך ואת צנך ואת בך וכל בללהם
 הוא צאכנפו ואמר משה העבד אהבת אתה נני את אשת יראתכן ללא אצא מש יוהג שואדני ואלהאי
 ושפת ילך מקראשרי נים שמהו כזי וזדאי שעל רעהו ולהרגו בעורמם עם זבח יתקחנו ולמתו מכה אביר
 היה אסור וענושי עשכאשרי שיעל יובע לה אשה ונתן כללי וואסור ויהיה הונתה הנפש שחת נפשעי
 לו וגם בעלי וירמת אספר יושע עליו ופאלי נפש וכוכל נפש עליו ארבני גחא ובתי גחא כמשפט
 נבאי ששוראו שותכזוא ומכרו ומה כקור של פתח תהשו וירא רבעצא וזתחתה האסמכתת רתי מצא גנבו
 למשני סאסלא מצא גנבו נקרו בכעל הברייתא האלת סאסלא שלתי ידו במלאכת רעהו על כל דבר פשע עלשו
 ראוי מתבעלי ואי נעמו שלם שלם אסכ על ידע מלאי שפאסכ ירה ואבא פתחא פתחא שבתו להאלי
 תעמי אתה ענין עמר לאתה הליוכנסה לאת שיעלי ונשואת בת לחתכל של מתד ער עדה באה שמשת יכנולו
 לנטאתא ריכיל הטתו ללאתה דבר יב (ס) פגע שוראי בך ואחמרו תעשה שבת יכנולו כיתראה חמו
 ששתי מים מתעמ עשירי כ יום השבת יעית שבת למע (ס) צו חשו וררו ומה נפשך ואתה ויהרו ככל אשר אנ
 קורא שיתב כורי אדמתך תביאי ביה יהוה אל הילך אתה בשלגדי בית לבאמו הנהאנ כישלח מלאך לפני ידלשמו
 כסוכך ואתה לחמך ואת מים ירוה סותי מחלתך ורתי אתה המשכלהו עקרה בארץ אתם ספרי מיך מלאאו
 ולא להי הסברי יתלאי שבו בארץ פני חטיא וזרלי כ (ס) צבד את אלתי סכני יהי הילך למקשו אל משהאמו
 לו עלתו זבחו זבחי שלם לליהוה פדו סו יקח משה חצי יהדסו שסכאג נתו חצי יהדסו זקע עלה מזבח וי
 יהוה יהוה השסו אתה לך אתה תאב ונהו תרוהו ומצוה האשר כתבת ליהו רתסו יקמשה יהוה ששעמר תו
 כרי יהוה אל משה אמר דבר אל בני ישראל וקח לך (ס) המאת כלאי שאשר ידכן ולכותק ואתה תרו מתו
 ועפית אתו וכלהו ומכיתו מן עת צפנו ועליו וזרו זהב סכני ויעקתו ארבע עכ עת זהבו נתתה
 אחד מקצה מזהמן הכפרת עשו אתה כרבי סעלשני יקצות ירו והיו כרבי ספרי שיכני סלמעלה סכני סכו
 יתרו זהב (ס) גרתו סביבו עשיתו ארבע עכ עת זהבו נתת אתה סכב עת על ארבע הפאתא שאל ארבע גל ויה
 ימנהו מצד השני שלשה גבעים ספסודי סבך נהאח דכ (ס) ויתו שלשה גבעים ספסודי סבך נהאח דכ
 להוראהו עשה כתבני יתאשר אתה מרא הבהרו אתה משכך תעשה עשר ריעת שמשו זרו תכלתו ואר גמ וותלעו
 לתה ללא את אשה אל אחת הועשית חמשי מקוס יזהב וכתבת אתה ריעת אשה אל אחת הבערס ימוהי המשכך א
 סיגבל לאתו וכתבת אתה האלוהי האחדו סרת העד קיב ריעתה האלוהי היריעה העדפתת סרת על אתה המש
 יכסות עשה תתעשו ימקורשני יארני סתתה קרשה אחת לשת (ס) ויתו וישני יארני סתתה קרשה אחת לשת
 וישני יארני סתתה קרשה אחת ועשית תברי חסעני שטי סתתה לקרשי צלע המסך ואתה ויתו משה (ס) חסלקר

〔三〕

「聖書の暗号」に対して懐疑的な人たちの反論のなかに、モーセ様の時代から今に至るまでの三千三百年以上に渡って、トーラーが正確に伝承されたのか、というものがありません。ユダヤの賢人達は、トーラーを非常によく守つてきたと主張しています。しかし、彼らは完璧さのことは言つておらず、それどころか、知られている間違い、また疑われている間違いは断続的に記録され、そのままテキストに入られています。トーラーを保持していく行為は彼らにとっては、神聖な行為でもあるからなのです。

ユダヤの人々にとってトーラーは、モーセ様が書かれたものではなく、神御自身が、一字一句教えられ、書き取られた(天上界のメッセージが、先生によつて口述筆記されるのと似ていると思います)ものであると信じているのです。また、トーラーはもともと、モーセ様の時代には単語間の空白がなく、一列の連続したものだという言い伝えもあるのです。

さらに、トーラーには、過去、現在、未来に存在する、

すべてのものの設計図であり、物理的な世界はまさにトーラーから引き出され、その逆ではないと信じられているのです。このトーラーの文字こそが、神秘的な方法により、世界創造のための神の媒体になっていると考え、それ故にユダヤの人々はトーラーに書かれている全ての文字を尊び神に与えられたままの状態を厳格に保ち、守り世話していくことが彼らの使命であり、歴史的な目的であると信じられています。

モーセ様を通じて神より与えられたこの目的と使命を誇りとし、信じ貫いたが為に数々の迫害を受け多くの試練に合い、離散し、たとえ他の文化や、他の民族の中で暮らしても同化せず、神を信ずる自分達を強く意識して、そのことにおいて、ユダヤの人々は、まとまっていたのです。彼らはトーラーの保存に、自分達の全エネルギーと集中力をそそぎ、世俗的な基準で高い地位を得た者ではなく、トーラーの神秘の奥義を極めていった者に、最高の榮譽を与えてきました。彼らにとって、人類の存在と目的が、トーラーの管理にかかっていると考える人々にとっては、誤つて写すだけで過去、現在、未来を通じて、価値あるものす

べてが危険にさらされることを意味していたのです。

そこで、筆写者という名誉ある職がユダヤの中に生まれました。この昔からの職業は、世界の敬虔なユダヤ人のいるところには、彼らがいます。決まったように大家族をもち、彼らとその家族は、普通ひげの手入れをせずに、冬でも夏でも黒いスーツを着用して、つねに帽子をかぶっています。服装も生活も質素なもので神の言葉であるトーラーを、すべてに優先させています。

一つの巻物から、他への巻物を写すときはかならずこの人たちが一字一字おこない、その事自体が神聖な儀式になっているということなのであります。ラビたちによる精神的な指導者たちの途切れることのない連なりが、モーセ様まで遡るように、それぞれのトーラーも同じくモーセ様まで遡ります。

世界中の人々に使われているトーラーには大別して次の三つがあります。「北部および東部ヨーロッパの国々で使われているもの」、「ラテン系ヨーロッパと北アフリカの一部の国々で使われているもの」、「イスラム教圏の国々で使われ

ているもの」があります。そして、三つのグループ離散は少なくとも、ローマ時代といわれており、この長きにわたる離散にもかかわらず、おどろくべきことにトーラーの文字の合計数、三十万四千八百五文字は同じなのであります。違いがあるのは、文字の変化で、合計九つだけなのであります。文字の違いが「聖書の暗号」に与えるダメージは微々たるものなのです。

ユダヤ教のマソラ学者と呼ばれるユダヤ人のほうが他のグループよりも、より厳密にトーラーを筆記上の間違いもなく、正しく伝えられてきたといわれています。

もし、文字に変化があったとしても、その変化が大きくなければ、暗号は消えないのであります。しかし、間違いが入り込むほど暗号は失われていき、決定的な数の間違いが起ころるまでは消えることがないのです。このことは、暗号の研究者達によつて調べられました。「聖書の暗号」に関する証拠は、数学的に高いものであり、ここまでの破壊は無いと確信ができるのであります。

トローラーを後世に伝えるためにユダヤの人々は、限りなき努力をしてきたのですが、忘れてはならないことは、トローラーを守りぬくことは、天上界の御加護がなければ、なしえなかったと思われるのであります。モーセ様の時代には、エル・ソラツティーヤ元王様が、イエス様の時代には、エル・ランティ前王様が、そして千乃先生にはミカエル大王様があらせられ、大宇宙の正しき法—正法—を、その時代、その時代に人類の為に、いろいろな角度から教え、導いてこられました。そして、人類のための一助となるトローラーを破壊から守るために気を配られたと推測できるのです。

先生の表で特徴的なものが見つかりました。一つは別表①で、先生の御名前と「約櫃」「モーセ五書」「コンピュータ」の四つの関係のある言葉が、横14×縦2111294文字の中に、あらわれました。これは、全トローラー中の○・○九六%の狭い範囲の中にあります。先生の御名前と「約櫃」は最小等距離間隔であります。

もう一つは別表②で、先生の四つ跳びの表で改めて「真

実の」を見直しましたら、かなり強い「クラスタリング」現象が現れました。この現象は、言葉、あるいは名前のすぐ近くの周りに、関連した重要な言葉が並外れて多く集まる現象であります。御名前の近くに現れるのだけを選んだのではなく、この表の中で「真実の」という言葉のすべの間隔をコンピュータで調べましたらこのように現れたのであります。

確率的にはかなり高くまた、今生きている方の名前の周りに現れるのは先生だけではないでしょうか。先生の御名前の周りに「クラスタリング」現象が現れるということは、天上界が認められたお方であるという、数学的に非常に高い証拠だと思われまます。

スカラー波を発見しましたテスラー様のお名前も見つかりました。創世記第四十九章の四節、五節、六節の非常に狭い範囲の中で現れました。それが別表③であります。お名前の上の方に「At the end of the days」終わりの日に「が見つかりました。これは、聖書の本文中にある文で、創世記ではここにだけ書かれてあります。日本語訳の聖書でこのあたりをみますと、「後の日に、あなたがたの上に起こるこ

とを、告げましょう」になっています。英語訳では「that may tell you that which shall befall you in the last days」になっています。日本語訳と英語訳とで、大きく違うところは、「後の日に」と「in the last days」であります。どちらかといえば、英語訳の方がより正確に訳されていると思います。なぜならば、「At the end of the days」の訳は、イスラエルで作成された検索ソフトの中の辞書で訳されたので、より正確と思われる、また英語訳と近いからであります。

また、この表の中には、スカラー波を連想させる次の言葉も見つかりました。「Russian」ロシア人、「importer」輸入「ロシア人のすぐ近くに現れている」、「bunching」収束する、「apparatus」装置、「synchronization」(2つのものが)同時性をもつ、「accumulator」累算「S波は累算する」、「death」殺す、「through」貫通」などであります。

エル・ランティ前王様の御本名であります、エル・シャルレア様の御名前も見つけることができました。創世記の中では一ヶ所だけ現れます。八文字のヘブライ文字になり、左記の箇所一字ずつ含まれます。創世記六章十節、九章

一節、十一節十三章、十四章五節、十七章五節、十九章二節、二十章十六節、二十二章二十二節であります。もっとも特徴的な節は、十七章五節で「あなたの名は、もはやアブラムとは言われず、あなたの名はアブラハムと呼ばれるであろう。わたしはあなたを多くの国民の父とするからである。」ではないでしょうか。前の節の四節からこの五節と次の六節そして七節を含んだこれらの四節には、私達にとっては非常に重要な箇所であります。アブラハム様(人類)と神との契約の箇所であり、また、後の代々の子孫(日本人をも含むと思われます)と契約を立てて、永遠の契約とされ、後の子孫の神となっていただけを示された箇所でもあります。

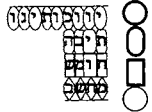
エル・シャルレア様の別表④では、地球を発見されたビラ様の御名前を見つけることができました。この方は、「天国の証」の第七章天使の詩集(二一六頁)のミカエル大王様の詩「幻想」の中に紹介されております。また関連の言葉も見つかりました。「terra」地球、「aqueous」水の、詩の中で、新しき水の星で紹介されています。「explore」(未知の土地などを)探検する」などあります。また次

の言葉も見つかっております。「twin」双児、「son-in-law」養子、「1978年」ダビデの消滅、王位を退位されまし
 た年、「author」創始者、「authentic」真正の」などでありま
 す。

(傍線は千乃による。)

別表①

yuuko tino ark
 pentateuch computer



וכלו אתהמן ארבעים שנה עד באסאל ארץ נור שבאתהמן אכלו
 וגבעיה והיה כאשר ירשי משה ידו וגברי ישראל וכאשר ינתי
 סעלאודתי ישראל אתכלהתלאה אשר מצאתסכדרך ויצלים יהו
 נורתוהו ודעתלהסאתהדרך ילכוכות(1) אתהמעשהאשר יעשוון
 וליסגלהמכלהעמיסכיליכלהארץ ואתסתהיולי ממלכתכה
 יהיתי צבובכתחתתההרוהרסיני יעשו(2) לומפניאשר ירדעל
 ויהאלהירושואכילאינקה יהוהאתאשר ישאאתשמורלוואד
 יוהבלאתעשו לכמוזבחאדמהתעשה(3) וזכתתעלי ואתעלתי ואתשלמיךאתצאנדואתבקר
 ואתמתי לךמקוםאשר ינוסשמהרוכי יודא ישעלרעהוהלהרג ובערמהמעסמוזבתי יתקחנורלמות
 ורגסב(4) ירוימתאסכפירושתעל ירוי תפדיןנפשו וכלאשר ישתעלי יואובן יגחאובתי
 ושני יסאסאימצאהגנבו בקרבבעל הכייתאלהאלהיסאסאלשתי דובמלאכתהעוהועלכלדבר
 ואתהעני עמדך לאתהיה הלוכנסהלאות(5) ויעלי ונגשך אסכבלתחבל לשלמתרעדבאבאהמשמש
 מיסעשהמעשי ירובי וסהשביעי תשם ולמען ינוחשורך והמרדו וינפשו כן אמתך והגרובכל
 דןאתלתמי ואתמי ירויהסודתי מחלוקת(6) רומן אתהיהמשכלהו עקרהבארץ אתמספרימיך אמ
 יזבחוזזבחי שלמיסל יהוה הפריסו קיתאחהציהדסו ישסכאגנתוחצי יהדס זרקעלהמוזבח
 למשהלאמרדבראלבני ישראל ויקתור(7) יתוראמהמתכלאי שאשר ידכנולכ ויתקחו אתתרומת
 וזהמן הכפורתתעשו אתהכרבי יסעלשני יקצות ירויהוהכרבי ספרשיכנפי סלמעלהסככי סככי
 והשני ישלשהגבעי סמשקדי סכקנהה(8) כפתור(9) רחושלשהגבעי סמשקדי סכקנההאחד כפתר
 ואתאתהירשיתחמשי סקריס יזוהבוחברתאתה יריעתאשהאל אחתהבקורסיסוהיהמשכן אחד
 ועשרי סקהקרטשני ארני סתחתהקשהאחד לשת(10) דתי ירושני אדני סתחתהקשהאחד לשת יד
 תלאתהפרכתתחתהקריס יסוהבא(11) מהמביתלפרכתאתארו ויעדו ותוהבדי להלחפרכתלכסבין
 יהמשכן לפאתנגבתי מנהקלעי סהיצורשמש זרמהבאמהארך לפאתהאחתועמדי ועשריסו
 יקרבאלך אתאארך אחד ירואתבני ירואתמותודבני ישראל כנהו וליאהרן נדבובאכלהוואל
 כבשת ישירתו זבסודו רג(12) תתשהאחטם מעשה עבתי ונתתאשר שתהעבתתעל המשכבותוע
 ושן מטבעתוואל טבעתהאפודבפתי לתכלתלה יותעלחשב האפודלו לא זחהשן מעלהאפודוונ
 לתועליתלהסאבנטיסו מגבועותהעשהלהסלכב ודר לתפארתי והלכשתאתסאתהארן אחיך ואת

〔四〕

「聖書の暗号」を信じない人達の反論の一つに、トーラーの著者はモーセ様ではなく、複数の著者によるものであり、その信憑性が高いために（結果として当然）トーラーには「暗号」が存在しないと彼らは主張しております。

その根拠の一つとして、申命記三十四章五節に、モーセ様御自身についての死の叙述が示されており、普通に考えるのならば、当然その人自身の死の叙述が示されていれば、本人がそれを書いた可能性は無くなります。

モーセ様のこの箇所は、トーラーの最後の章の五節からであり、トーラーの全文字数三十三万四千八百五十五文字の中から最初から数えて、三十三万四千三百九十八番目の文字から始まっています。ここから、トーラーの最後まで文字数を数えますと、四百七十七文字になります。この箇所はおおよそ、トーラーの1.2/1000に相当します。つまり、この箇所は非常に狭い範囲に限定され、また最後の箇所なので、「聖書の暗号」にとつてはほとんど影響はないと思われれます。

また、この箇所は当然モーセ様の「口述筆記」によって書かれた箇所ではなく、他の方が書かれたものと思われるま

す。可能性として、ヌンの子ヨシユア様が天上界の御指示で、トーラーの追加として、モーセ様の死の叙述を「口述筆記」により書かれたのだと思われれます。なぜなら、モーセ様の死後では、ヨシユア様に指揮権が移り、また、ヨシユア様もモーセ様と同じく「神の声」を聞かれた方であるからです。故に、後の時代になればなるほど、トーラーに追加の記述を書くのが困難になると思っております。

また、複数の著者によるものとしては、物語の重複と差異、そして神の名の違いをあげております。物語の重複は、創世記一章と二章での「創造」の重複、また、創世記十二章と二十章での「アブラハムの妻サラ」の重複、そして、創世記十六章と二十一章での「ハガルの逃亡」などがあります。また、差異については、創世記六章と七章での「ノアの箱舟に入れるための動物の数の違い」などがあります。また、神の名の違いについては、「ヤハウエ」で書かれた箇所もあれば、「エロヒム」を用いている箇所もあります。以上の事柄などを根拠に複数の著者が存在するとしており、結果的に「暗号」は存在するはずがないとしています。

この結論は、神の存在を前提とした考えで下した結論で

第四章

聖骸布の検証

千乃裕子

トリノの聖骸布への疑いと反証

ジャンヌ・ダルク男性説に続いて第二の愚説——十三世紀や十四世紀に画家がリネンの上に描いた像だとか、イタリアの人類学者ピトリオ・デルフィノ教授（パリ大学）によれば、石膏の像の上に布をかぶせて、その布を撰氏二一〇（二二〇）度で三十秒間あぶれば、百枚でも二百枚でも出ると、これは全く非科学的な説を本にし、五十六年末に発刊したとのこと。教授という地位があれば、如何に拙劣な説でも世間は注目するものだと感心致しました。（『希望と愛と光』一九八一年十一月号参照）（全く！）

ヘモグロビンの反応を示す血液の跡、その流れの方向、ムチ打ちの跡、ユダヤ人の容貌と三十歳代の身体、各所の聖書記述通りの、数まで一致する傷跡、槍と釘の跡、まぶたの上に置かれたコインの大きさと同形の跡、当時のパレスチナで生えたとされる不毛地帯植物の花粉と（死海やネゲブ周辺の典型的な植物）布があちこちに運ばれ、隠されていたとされる歴史通りの場所や国の植物の花粉。あらゆる可能な、そして厳密な物理化学的測定と調査（炭素14法による年代測定を除く）研究に基づき行われたNASA科学

者チームによる発表ですが（『UFOと宇宙』八十二年新年号参照——参加学者名不明、一九八〇年十月、四十名の科学者が五昼夜にわたってテストを行なう、とある）、デルフィノ氏説に関するサンケイ記事（一九八一年九月二十八日朝刊）（盲目記者が多いサンケイは、この頃から反千乃記事を書いていたんですね——）に同時に記述されておりましたが、更に、米国物理学者、ケネス・スチーブンソン、ゲアリー・ハバマス両氏及び、四十人の学者が聖骸布を鑑定、本物と断定を下した同じ説の新資料でしょう。両氏は布の写像が自然現象では説明出来ない熱あるいは光の照射で生まれた物としながら、『UFO』誌のNASAチームは、顔のりんかくなどの立体像がどのようにして克明に布に写し出されたかは謎としております。密着していただけでは証明出来ない立体的なものとのこと。

しかし布に描かれた画像でも十四世紀に偽造した物でもあり得ない、あまりに多くの証拠が分析によって発見されたことは当然すぎるほど当然です。中世の科学技術にも知識にも、キリストが十字架の上で苦痛を和らげる為にしぼしば伸び上がり、それによって生じた血液の流れの角度、脇腹を槍で刺された時にほとばしり出た血の流れの跡——

そういった物を偽造する術は皆無。現代でも、これだけ多くの事実を裏付ける為に聖骸布をそのまま偽造することは、実物がなければ不可能なのです。それを結論づけられない学者は石頭でしかありません（日本のみならず、仏にもイタリヤにも石頭学者が多いんですね）。水の代わりに酒精飲料ばかり飲んで、トロンとした目で仕事をするからです!!。

（八二年三月）

十字架上の死及び復活を示す聖骸布

実験に先がけてのヒントと解答

実はこれについては、第四卷『天の奇蹟』下巻発刊まで発表しないと心に決め、『J』誌にもそう断言しておりましたが、NASAでは（前述の科学チーム）来年辺りにトリノの教会が炭素14法テストに合意するだろうと言っておられますし、こちらはまだ中巻も製本に掛っておらず、下巻が出るのは一寸時期が判りませんので、方針を変えること

に致しました。セルメスシリーズ第三卷『エルバラム（天使の群）』にも同様に発表致します。

真偽論争が現在の実験方法で果たして正しい解答を得、終止符が打たれるかどうかに疑問を生じてきたこともあり、一方こちらに先んじて万一正しい説明が得られた場合、私達の出る幕がなくなりません。つまり、真実を知る天上界高次元の方々が自ずからを証明する場を一つ失い、私にとつてはこれは耐え難いことです。偽メシヤ、宗教宗派及び非良心的なマスコミが勝ち誇る機会を虎視眈々と待ち構えているからです。

さて、前掲のUFO誌八十二年新年号によりますと、四十名の科学者がテストを行ない、どうしても謎として解明を待つ事柄に、

一、いったいどのようにしてその像はリンネルに付着して、完全に立体的な像を形成したのか

二、このリンネルに、どのようにして奇蹟的な立体像が現われたのか

の二点があります。

彼等はおもひ布が人間の顔に直接に押しつけられたら、できる像は歪んだものになる。そして一つの実験をやってみ

て、一人の男の顔に油を塗り、その上に布をかぶせ、その布を焦がして像を得たが、随分歪んでいた。その理由は立体的な物体を二次元の物に投影したからで、結局一、二の論点は謎のままであると書いております。

又、像が押し花のように紙の間にはさまれて押しつけられた葉のように見える。そして実際に押し花は、本の八ページを通してしみを残しており、それは押し花が紙のセルロース繊維によって吸収される自然の化学作用、というよりも酸化作用によってしみが生じている状態だ。その場合、歪んだ像でなく、正しい像が付くはず、だから写像は自然の経過によって起こったに相違ないと推論するチーフ・カメラマンも居ります。

しかし、彼等がケネス・スチーブソン氏とゲアリー・ハバマスの両氏と共に働き、両氏の結論を知つての上で語っているかどうか疑問が湧きます。何故なら、スチーブソン氏とハバマス氏の結論がずばりその解答であるからです。

私は御存知の通り、物理学者でも何でもなく、正法活動と機関誌編集他で、全くの忙しい日を過ごしており、実験器具もなければ設備もなく、専門的な化学実験の方法も知

りません。そして正法者の中の専門家にこの実験を依頼し、今年中にそれが可能であれば天の言われる条件を満たし、証明する実験結果を得たいと望んでいる段階です。

ミカエル様の言われる実際に起こったこと——イエス様が安息日に埋葬が禁じられているので、金曜日の午後三時頃息を引き取られてから三時間位して十字架から下ろされ、その後一時間ほど掛けてようやくその近くの新しい墓に仮安置され、型通りに亜麻布で全身をおおい、布ひもで数箇所をゆるくくくり、腹部と布の間に没薬もつやくと沈香の入ったつばを置いて、塗油もせず（*）、埋葬の儀式もそこそこに、弟子達や母マリア及び弟妹達が帰宅し、安息日の始まりにようやく間に合ったということが、『聖骸布にもとづく十字架の道行』モンシニョール・ジュリオ・リッチ著、『聖骸布』ガエタノ・コンプリ著、ドンボスコ社及び新約聖書の四福音書、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ伝にかなり詳しく書かれております。

（*）アロエ、没薬、沈香他香料が、塗られたと聖書にあるが、塗るひまはなかった。だから血痕がそのまま残されている。流された血の跡もそのまま。それがイエス様御自身を証明した。（編者）

しかしイエス様が墓に安置されて安息日の次の日、日曜の明け方に、マグダラのマリアがイエス様の復活を知る迄に大きな石で戸のようにふたをされた岩の墓の中で何が行なわれたかを語れるのはイエス様の復活を可能ならしめた当の天使方（現在のミカエル大王様他の元大天使方や天使方）以外にはないことを読者の皆様も納得なさるでしょう。

ミカエル様は言われます。十字架上の死に至る苦痛を少なくする為、頭頂部から間断なく電氣的刺戟を与え続けた後、息を引き取られて一時間、死後硬直が始まる寸前迄、あまりの凄惨な死を実現させたショックと悲しみに只、ほんやりと見ておられた。イエス様の魂は身体を離れず、そこには人々のすすり泣きと号泣の声と真二つに裂けた神殿の幕屋を見て恐れた兵士や見物人を支配した不思議な静寂が、ミカエル様達にも次に為すべき事を忘れさせた。

そして我に帰り、イエス様の魂が身体を離れないように、永久の死が肉体に訪れるのを防ぐ為にあらゆる意志の力を働かせて、四方八方から天使達、大天使達、総勢二十人位で光でもあり熱でもあるエネルギーを与え始め三十七時間余（聖骸布に包まれてから三十四時間余り）そして復活されてから二時間余り、続けたと言われます。イエス様を心

の底から敬愛しておられて、その死をサタン・ダビデの残酷非道な仕打ちで迎えたミカエル様の胸中は誰に説明しても理解してもらえない、はり裂ける思いに満たされていたと言われます。イエス様を間接的にしか知らないキリスト教徒があればど慕い、十字架の死を悲しむのですから、ミカエル様の悲しみは、他の誰よりも深く、傷つき、心の血を流し続けられた物であつたでしょう。

そして天を仲介する者のこのような死は二度と来たらせまいと固く決意されたのです。それは不幸にもサタン・ダビデの飽くなき悪の野心と謀略で、くつがえされてはきましたが――。

即ちこの与え続けられた電磁エネルギーが（カロリー値は後に実験で割り出されます）筋肉賦活に役立ち、細胞を枯死させずに済ませるのにその役割りを果たしました。

墓に横たえられて二時間ほどして、イエス様の魂は抜け出たしまわれ、死体は筋肉細胞だけが生かされている状態になつたとのことです。そして三十四時間、日曜日の明け方五時にイエス様の魂に身体に戻る言われ、イエス様のお身体は、聖骸布を出られ（*）墓の隅に隠れて立つておられた。そこにマグダラのマリアが友人と現われ、そ

の時大天使方は封印を切り、石の戸を転がされた。マリアに話しかけられたイエス様は霊体でした。再び抜け出られて——。御身体は大天使方が支えました。

(*) 一説にク布をたたむとあるが、復活の状態では立ち上がり、歩く以外の動作は不可能、と天上界の証言あり。(編者)

そしてマリアが再び勇んで弟子達の所に報告に行つた後、復活の証として、イエス様の御身体を、魂が入られ、動かす奇蹟が行なわれたのです。体温を保ち、筋肉が硬直しない為と与え続けられたエネルギーが細胞を死なせず、容易に動かしたのです。それは生理学の実験でも可能であることを、小動物の実験から専門家でなくとも納得しようと思えます。

何度も立ち止まりつつ人目を避けた道を二時間後にイエス様の身体が、ようやく行き着ける場所、ベルス河岸に着く迄動かされ、歩かされて、そして水中に沈められました(追記)。その日の夕方以後弟子達に会われたイエス様はすべて霊のお身体——魂であつたのです。

奇蹟その物は経過だけでは大した事には見えなくても、ここに聖骸布に写し出された立体像の秘密の謎解きのヒン

トがあり、解答があるのです。

聖骸布が、ゆるくおつた状態で、全面に密着していなかったから余計に鮮明に映像が写し出され、それが写真のような平板なものではなく、レントゲン写真のように立体的にイエス様を前面、背面の細部にわたつて写し出し、しかも強い放射線ではなく、普通に遍在する電磁エネルギーで行なわれたがゆえに、布と肉体との距離に忠実にネガフィルムを布上に作り出し、レントゲンフィルムのように骨のみを写し出すことはなかったのです。広島の爆心地近く、とある銀行の石段に腰掛けていた人物の影が丸味もそのままに、くっきりと焼きつけられていたように——。放射線も含めて電磁エネルギーはそのような作用もするものです。しかし勿論これは重ね合わされた部分は写し得ず、布に面した部分のみを写し出すのは電子のメカニズムからみて当然のことでしょう。只レンズを通したのではないので実物の大の写像、立体像が現われたのです。

トリノの聖骸布のみがネガの役目を果たし、他の聖骸布は一枚もその形で残されてはいないはず。何故なら、イエス様のみがそのように長時間布を通して電磁エネルギーを与えられたからであり、又、写像はスチーブンソン氏とハ

バマス氏の説の通り、自然現象では起こり得ず、熱あるいは光の照射によって生まれたからなのです。たとえ全面的に密着していても、押し花のように上下から重石がなければ、平面的な歪みの像であつても似た物は出せません。

そして聖骸布にイエス様の立体像を写し出す為は何らかの工夫がなされたわけではなく人によって々偉大々という表現をしようと、々何んだ、簡単な々と表現しようと、それは々イエス・キリストの復活を実現する過程での副産物々であつたのです。しかも死海周辺地域の強い電磁波の偏在するパレスチナでこそ可能であつたでしょう。(『天国の光の下に』二八四頁及び『エルフォイド(天使の冠)』一五六頁参照)

これらのことは専門的な数字、計算を用いて、改めて聖骸布実験の報告書として、正法者の専門家の方々に提出して頂くと思つております。

(一九八二年一月二十四日)

(注)

☆ついでながら、サンケイ一月下旬某日紙によると英国で最近、キリスト生存説の資料を十年掛けて集め、結論付け

て、「聖なる血統の探究」という本をヘンリー・カーンら三人が共同執筆で出し、またそれがベストセラーとなつてゐるとのこと。残念な事に、イエス様には四名の弟様が居られたと伺つております。似た顔だちの方も居られるはず。あるいはキリスト復活の証明の為の偽系図の偽者。

サタン・ダビデがイエス様を生かしておくような人物だと思ひですか？ 最も残酷な方法で死に至らしめ、天を悲しませるのが目的でエル・ランティ様にあのドラマをその昔提案したのですよ。々最も人を感動させる、人類を救う近道々としてね。あのような形の死——十字架刑の凄惨極まり無き形を、天は決して望まれなかつたのです。少しずつダビデが人を介して予告させた死刑の方法が、あのような物であるとは、エル・ランティ様は想像なさりたくなかつたでしょう。天の王のお仕事の忙しさに取り紛れて——七大天使のみがそれを悟り、何とかエル・ランティ様に進言を試みておられました。巧妙にもいつもダビデが側に居り、それを歪めてごま化してしまつたのです。そして何よりも巧妙にエル・ソラッティヤ王に取り入り、ソラッティヤ王がダビデへの正しい理解を阻みました。(エル・カンタルーネ王家の系図参照)

偽メシヤを信じたがる人も多いのですから、ク一笑に付すべきでないクと言ったナンセンスな英国の著名な小説家も、貴族が末裔というこのお話に好感を持った、いかにも英国人らしい意見です。天上界ではク一笑に付されました。因みに、掲載紙の日曜紙オブザーバーというのは、サンケイ仲介の記事からはこういった興味本位の低俗な内容ばかり。呆れた物ですね。サンケイがそういった物も載せないと売れないのは判っておりますが。

☆偽メシヤと言えば、霊友会の天玉尊女史ですが、マイトレーヤー如来なる人物（どうやら『光の下に』で御紹介しました、現天上界が全然御存知ないク中近東クの救世主と関連がありそうですが？）を大々的に救世主としてテレビ放映専門で紹介している英国人も居り、ユリ・ゲラーと同じ原理のク奇蹟ク現象（？）なのでしょうが、英国人が一番重症のメシヤ病なのです。

（四月二十四日 千乃）

（追記）

〔最近の考古学者の発見による、イエス様らしき埋葬遺体（白骨化）は次のような経過により、実現したもの。〕（『正論』二〇〇一年十一月号所載越智道雄明大教授論文参照。）

天使方がベルス河にイエス様を沈め、それを恐らく後を付いて行ったラザロとその召使い達から、マゲダラのマリアがそれを知らされ、協力して別の地へ埋葬し直した。秘蹟として公表されずです。

エル・ランティ様はゴルゴダの丘の雷鳴や幕屋を裂く奇蹟を行なっておられ、その場には不在。ミカエル様、ラファエル様他大天使方が復活の奇蹟の顕現後に、ベルス河へイエス様を流された。天はイエス様のお身体を残す事は復活に繋がらないので、河に流された。遺体を拾い上げての再埋葬は今迄御存知なかったと――。

（千乃）

悪魔の技をなすタリバン、アルカーイダと天の意に叶う北部同盟の戦士達

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 01年11月……………	406
聖句 (レイナ・エル大天使長) 01年11月……………	410
左翼ゲリラの卑劣な策謀を隠蔽するマスコミ (ミカエル大王) 01年12月 ……	413
聖句 (レイナ・エル大天使長) 01年12月……………	417
千乃様へ偏見と妄念によって対峙し、S波防御を粗略にし、死に追いやるキャラバン隊員とボランティア (ラファエル大王補佐) 02年1月・2月……………	420
エル・ランティ様からの地球人類への最終メッセージ／聖句	

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 02年1月・2月……………	424
アトランティス大陸の末裔の王族を出自とされる千乃裕子様／聖句	

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 02年4月……………	427
天によって滅びる者の筆頭となるアース調整係	

(ラファエル大王補佐) 02年6月・7月……………	429
レイナ・エル大天使長の権限の証 (ミカエル大王) 02年8月……………	430

天界に於ける変動／聖句 (ミカエル大王) 02年9月……………	431
大災害による地球全体の核汚染と人類、全生物の終焉	

(ヴァル大天使長) 02年10月……………	434
共産ゲリラの策略に欺かれ、天に弓を引き、末期ガンの千乃様にS波攻撃の仲介を率先して行なう伝達係とアース・チェッカー	

(ヴァル大天使長) 02年11月・12月……………	436
---------------------------	-----

聖句（レイナ・エル大天使長） 01年1月	352
現在の日本に欠ける無償の愛の心（ラファエル大王補佐） 01年2月・3月	355
聖句（レイナ・エル大天使長） 01年2月・3月	357
隊員の非協力と病的妄想により目的と意義を失いつつある千乃正法 （ミカエル大王） 01年4月	360
聖句（レイナ・エル大天使長） 01年4月	363
サタン・ダビデの悪の王国への遠大なる企みと天の真実 （ラファエル大王補佐） 01年5月	365
聖句（レイナ・エル大天使長） 01年5月	374
特殊犯罪を黙認し、助長させるマス・メディアの怠慢 （ラファエル大王補佐） 01年6月	377
正法会の次期会長として天の辞令を受理されておられる濱明社長 〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 01年6月	381
聖句（レイナ・エル大天使長） 01年6月	384
日本の国体の安泰にとって疑問な首相公選制と女帝論 （ラファエル大王補佐） 01年7月	388
平成の日本人が正道に帰る唯一の手段 〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 01年8月	391
聖句（十戒）（レイナ・エル大天使長） 01年8月	395
決して惑わされてはいけない悪霊ガブリエル々の霊示 〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 01年9月	396
マタイによる福音書から（山上の垂訓）、モーセ五書十戒より、讚美歌二六三番 （レイナ・エル大天使長） 01年9月	398
米国中枢同時テロ批判（ラファエル大王補佐） 01年10月	401
聖句（レイナ・エル大天使長） 01年10月	403

〔エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)〕 99年5月……………275	
神の選民 (忘恩の民、日本民族) の罪が世界を滅す宿命を与えられた一大悲劇	
〔エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)〕 99年6月……………277	
キャラバン隊において千乃様の人権を御守りする為には	
(ラファエル大王補佐) 99年6月……………279	
自分達のリビドーに関し、千乃様に原因追及をする卑劣なキャラバン隊員	
(ラファエル大王補佐) 99年10月……………285	
聖句 (レイナ・エル大天使長) 99年12月 ………………288	
聖句 (レイナ・エル大天使長) 00年1月・2月・3月・4月・5月・6月・7月……………290	
天上界より御通告 [エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)、ミカエル大王、ラファエル大王補佐] 00年6月……………297	
自己保身のため、天を棄て、闇に走る愚か者 [エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)、ミカエル大王、ラファエル大王補佐] 00年8月 ………………302	
聖句 (レイナ・エル大天使長) 00年8月……………304	
♪悪魔の誘いッを喜ぶ愚か者達	
〔エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)〕 00年9月……………306	
天のメンバーとして迎えるべき人々 (ラファエル大王補佐) 00年10月 ………………313	
聖句 (レイナ・エル大天使長) 00年10月 ………………319	
神につながる者を徹底して叩き潰す共産主義支配	
(ラファエル大王補佐) 00年11月……………324	
最後の善なる天の指針と助言	
〔エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)〕 00年12月……………331	
聖句 (レイナ・エル大天使長) 00年12月 ………………340	
「聖書の暗号」の目的とそれが真実のものであるとする天の証言	
〔エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)〕 01年1月……………343	

ゲリラのマインド・コントロールに操られるキャラバンの消滅宣告隊員	
	(ラファエル大王補佐) 98年3月……………230
徳性に欠け、キャラバン隊において々獣性々むき出しの正法者	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 98年3月……………232
キャラバン隊員及び正法ボランティアに現在与えるべき戒め	
	(ミカエル大王) 98年4月……………234
々燃えさかる悪魔の獄舎 ^{ひとや} この煉獄の火の中で々	
	(レイナ・エル大天使長、ミカエル大王) 98年5月……………237
今後の位階変動と解除に関する方針	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 98年5月……………239
神の警告に無音、無反応なキャラバン隊	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 98年6月……………240
悪が支配権を奪い、崩壊する日本 (ミカエル大王) 98年8月……………243	
似非正法者に殺されつつある千乃様 (ラファエル大王補佐) 98年9月……………246	
最も重要な掟 [エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 98年9月……………256	
幽界及び消滅宣告をされたる者の傾向と処分の理由／聖句	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 98年10月……………258
特に皆さんが誤導され易い点と意識と精神の向上のための天の指針	
	(ラファエル大王補佐) 98年11月……………261
聖なる方を汚す偽善者の群れ、道義地に墜つキャラバンの実態	
	(ラファエル大王補佐) 98年12月・99年1月……………265
正法会追放処分について [エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 99年2月……………270	
正法衰退の原因とミカエル大王のキャラバン隊員への警告の補足	
	(ラファエル大王補佐) 99年3月……………271
天に弓引く裏切者、消滅宣告者、正法会追放宣告者の悲惨な末路	

最後の証、天の意志と真実と計画の総てを仲介する資格を持つ千乃裕子様	
	(ラファエル大王補佐) 96年2月……………156
違法電線工事により死滅が進みゆく自然界 (ミカエル大王) 97年4月……………162	
共産党系ゲリラのS波兵器使用とソ連との関連	
	(ラファエル大王補佐) 97年4月……………174
ミカエル大王メッセージの補足修正	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 97年4月……………177
天からの重要な証、天上界の歴史と真実	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 97年5月……………179
弟子たる正法者から屈辱を受け続ける大王妃様	
	(ミカエル大王) 97年6月・7月……………184
磁極の逆転、地球軌道の変化まで引き起こしかねない深刻なS波汚染	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 97年6月・7月……………189
エルアール出版濱明永紘社長へのお手紙	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 97年8月……………193
天より与えられた聖なる教えと大自然の摂理に即した生き方	
	(ミカエル大王) 97年10月……………199
天が初めて明かす天上界の系図とビーム兵器の由来	
	[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 97年11月……………201
至高なる神の御意志と御計画 (ラファエル大王補佐) 98年1月 ……………206	
S波兵器による自律神経失調の特徴が唯一当てはまらない千乃様	
	(ミカエル大王) 98年1月……………209
S波の弊害を認識し、排除する思考法 (ラファエル大王補佐) 98年2月……………214	
間脳思考と犯罪者を生み出す教育界 (ミカエル大王) 98年2月……………221	
キャラバン・メンバーの墮落しきった心情と性格 (ミカエル大王) 98年3月…228	

教育制度の改悪と天の怒りと裁きが下される正法者

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 96年4月……………85

今、正法者に必要なこととは (ラファエル大王補佐) 95年9月 ……………93

天のメンバーとして評価される心構えとは

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 95年8月……………106

正法者の使命と天の一員にふさわしい人とは

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 95年7月……………112

「正法」における「大切なもの」とは (ラファエル大王補佐) 95年3月 ……………117

ハイテク兵器により先鋭化するイデオロギー犯罪とオウム真理教

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 95年5月……………120

メッセージ集Ⅲに書き落としたこと

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 95年3月……………123

天と共に歩み、天の戦士となる資格／聖句

(ラファエル大王補佐) 96年9月・10月……………129

今、千乃正法に集う正法者は何を為すべきか

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 96年11月……………132

テスラ兵器を駆使して自由主義陣営壊滅を目論む左翼勢力の陰謀

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 97年2月……………136

千乃正法が世に出された理由と個々の正法者の義務と責任とは

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 97年3月……………139

想像を絶する千乃様へのS波の集中ビーム攻撃と強大なるS波パワー

[エル・ランティ (ヤハウエ・エホバ)] 97年3月……………143

キャラバン・メンバーが陥っている視点の誤ち (ミカエル大王) 97年3月……………149

千乃様を凡俗の輩のような目でしか見ない、新人類のキャラバン・メンバー

(ラファエル大王補佐) 97年3月……………154

天上界メッセージ集・Ⅳ 索引

- ミカエル大王様の御帰還（ミカエル大王） 96年12月・97年1月…………… 3
- ソルジェニーツィン氏の警告、世界共産主義の本質と脅威
（ミカエル大王） 97年2月……………24
- 天災、人災時における天の奇蹟
〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 95年1月……………34
- 神の掟に逆行するマルキシズム
〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 95年2月……………39
- 天と正法者の離間を企む共産党地下ゲリラの偽装工作
〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 95年6月……………42
- コンピュータ連動のS波攻撃と左翼の手先と化する背反者達
（ラファエル大王補佐） 95年11月……………45
- S波によるマインド・コントロールと致死性兵器化する電線、電柱工作
〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 96年1月……………50
- 正法の崩壊と天が地球人類から離れ去る時
〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 96年5月……………54
- 天と地の前に恥を晒す背反者達
〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 96年6月……………57
- 望まれる誠意と自己犠牲による正法再建への努力
（ラファエル大王補佐） 96年7月……………62
- 再認識すべきマルクス・レーニン主義拡大阻止への啓蒙運動
〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 96年8月……………66
- 人間として防がなければならないS波による自然界の死と絶滅してゆく生物達
〔エル・ランティ（ヤハウエ・エホバ）〕 96年12月・97年1月……………79

未来の幸せをめざして—

天国の扉 (改訂版)

再臨の救い主達 (七大天使、モーセ、ブツタ、イエス) による最初の正式な証言集。ミカエル大天使の真相を明かす衝撃の書! 神とは、靈魂とは何かを徹底的に解明し、天国の実在を証明。(定価一、二六〇円) ★英語版、韓国語版、中国語版も発売中!

最後の審判より希望の星へ—

天国の証 (改訂版)

再臨の救い主達による第二回目的証言集。人類の救いにある最後の審判に対してミカエル、ガブリエル等天使達のメッセージ及び進化論に基づき、宗教と自然科学の一致を立証する。(定価一、二六四円) ★英語版、中国語版発売中!

エクソシズムからアトランティス大陸の謎の解明

天国の光の下に (改訂版)

読者の憑依体験、奇蹟の体験寄稿集。編者による霊能、霊界の科学的分析に加えて、環境問題、アトランティス大陸の実証を網羅した傑作。(定価一、三六五円) ★英語版発売中!

諸説の真偽を篩いわけ聖書の奇蹟とその謎を解明

天国の奇蹟

上1050円、中1260円、下1580円
自然科学の源流を求めて。あらゆる奇蹟・謎を天の示唆を得て解明。岩間文彌著 千乃裕子編著

天の危機・人類の危機を迎えて—

天上界メッセージ集 (正・続・Ⅱ)

「最後の審判」という大いなる法の裁きの下で、天上界が語る数々のメッセージ。(正)(続)一、二六四円(Ⅱ)一八三五円

★希望と愛と光をあなたに 英語版も発売中!

天使の詩 (セルメス)

定価 714円

天上より三次元の人々への警鐘、そして希望あふれる天使の詩。

★光に生きる人生をあなたに

天使の冠 (エルフォイド)

定価 819円

天使の冠とは? 天の善しとされる正しさとは? 勇気とは?

★光、光、光の世界をあなたに

天使の群 (エルバラム)

正825円・続924円

地球上の進化とともにあった天上界からの警告。

★天は人の世に破壊をもたらさな

天使の智慧 (エルロイ)

定価 928円

すべての人々へ愛と希望と勇気を今ここに贈る。

★天は愛と義と智に満ちた人々のために在る

天使の角笛 (エルカロム)

定価 924円

人類のために天は今、時の流れを変える角笛をならす。

神の怒りと悲しみ

歩紀袖衣著 / 定価 998円

未知の地球史を公表し、(最後の審判の真実)を論証!

古代日本と七大大使 (神代編)

古代日本歌謡、和歌がヘブライ語の意味を持つ事を発見し訳出!

西澤徹彦著 千乃裕子監修 / 定価 2630円

神々の憂いと悲しみ

天と地のはざまにて 星を仰ぐ!

著者最新の執筆文「神々の憂いと悲しみ」と、最新の天上界メッセージを一挙掲載。反共産主義に立脚し国内・国際情勢に警鐘を鳴らしてきた著者の執筆集「政治編」を編纂!

千乃裕子著 J-I編集部編 / 定価 2855円

現象テープ・リスト

天上界の真の現象は、下記のテープのみです。
 現正法をよりよく理解する為には是非お求め下さい。

No.1-No.3 欠番	No.27 正法流布について(ガブリエル様) 質疑応答 S.55.8.11 現象 土田展子
No.4 正法基礎講座「ミカエル様の法話」 S.52.6.23 現象 土田展子	No.28 自己犠牲について(ミカエル様) S.55.9.14 現象 土田展子
No.5 正法基礎講座「明るい心、暗い心」 S.52.7.18 講師 千乃裕子	No.29 イエス様クリスマスメッセージ「愛と信仰」 S.55.12.21 現象 土田展子
No.6 正法基礎講座「高校生クラス」 S.52.8.1 講師 米本 明	No.30 啓蒙運動としての現正法 S.56.4.12 講師 岩間文彌
No.7 正法講座「『天国の扉』出版お祝いの言葉と共に」(ミカエル様・イエス様) S.52.12.1 現象 土田展子	No.31 天上界と質疑応答(ガブリエル様) S.56.9.10 現象 土田展子
No.8 正法講座(イエス様・ミカエル様) S.52.12.14 現象 土田展子	No.32 物の考え方について(ラファエル様) S.56.9.15 現象 土田展子
No.9 正法改正理論 S.53.3.21 解説 千乃裕子	No.33 慈悲について(ガブリエル様) S.56.9.13 現象 土田展子
No.10 正法を学ぶ人のためにI「後継者について」 (ミカエル様) S.53.7.10 現象 千乃裕子 土田展子	No.34 霊について(ミカエル様) 霊能と天上界高次元の霊について(ラファエル様) S.56.10.18 現象 千乃裕子 土田展子
No.11 正法を学ぶ人のためにII(ミカエル様・イエス様) S.53.10.16 現象 千乃裕子	No.35 クリスマス・メッセージ(イエス様 ラファエル様 ガブリエル様 ミカエル様) S.56.12.20 現象 土田展子 谷田三枝 金鐘漢
No.12 正法を学ぶ人のためにIII(ミカエル様) S.54.2.1 現象 千乃裕子 メッセージ(ブツ様) S.53.10.1 現象 土田展子	No.36 消滅について(ガブリエル様) S.56.12.27 現象 土田展子
No.13 心の働き S.54.3.17 講師 岩間文彌	No.37 イエス様 ウリエル様 サリエル様 パスエル様 ラグエル様 メッセージ S.57.1.10 現象 土田展子 谷田三枝
No.14 正法の歩みーギリシャ時代 S.54.6.3 講師 岩間文彌	No.38 ユートピアについて(ウリエル様) ガブリエル様 メッセージ S.57.1.17 現象 土田展子 谷田三枝
No.15 身体と霊体の成り立ち S.54.9.2 講師 岩間文彌	No.39 進化の歩みをたどりて S.58.7.10 講師 岩間文彌
No.16 ミカエル様メッセージウリエル様正法講座 S.54.11.4 現象 土田展子	No.40 ガブリエル様 イエス様 メッセージ S.58.7.10 現象 谷田三枝
No.17 イエス様 クリスマス・メッセージ S.54.12.23 現象 土田展子	No.41-No.44 欠番
No.18 「魂の研磨」について(ガブリエル様) S.55.2.10 現象 土田展子	No.45 天の奇蹟・下巻 発刊によせて (ラファエル様) S.62.7.5 現象 金鐘漢 千乃裕子
No.19 「宗教と人間の関係」(ガブリエル様) S.55.3.9 現象 土田展子	No.46 「『天の奇蹟』完結にあたって」 「天上界と古代日本」 S.62.7.5 講師 岩間文彌 西澤敬彦
No.20 再び愛について(ミカエル様) S.55.4.6 現象 土田展子	☆目の不自由な方に声の図書を/ (心に語りかける朗読です。) 天国シリーズ①「天国の扉」全6巻 7,000円 ②「天国の証」全6巻 7,000円 ③「天国の光の下」 に全9巻 7,000円(各巻送料共) セルメスシリーズ①天使の詩(セルメス) ②エルフォイド(天使の冠) ③天使の群(エル パーラム) ④純天使の群(続エルパーラム) ⑤エルロイ(天使の智慧)ー各巻5,000円 ☆朗読伴奏のみのコレクションテープ60分テープ 2本を一セット(2,000円送料別)で販売致してお ります。
No.21 原罪とは(ラファエル様) S.55.4.13 現象 土田展子	
No.22 現正法と転生輪廻 S.55.5.4 講師 岩間文彌	
No.23 A.心の美は(ガブリエル様) S.55.5.11 現象 土田展子 B.「天上界よりの通信」1977年の約束(ミカ エル様) GLA関西新年講演会(於東大 阪市民会館)より抜粋	
No.24 第1回慈悲と愛協会総会(ミカエル様メッ セージ) S.55.5.18 現象 土田展子	
No.25 天国語の語源について(ラファエル様) 質疑応答 S.55.6.29 現象 土田展子	
No.26 良き人間関係について(ミカエル様) 質疑応答 S.55.8.10 現象 土田展子	
テープ価格は1本1,200円(送料・消費税は別) 〒150 東京都渋谷区松涛1-4-9 サンエルサビル101号 (株)エルアール出版 TEL 03-5453-1870	